

赤磐市スポーツ推進計画



赤磐市教育委員会

令和4年3月

目次

1 計画の概要	1
(1) 計画策定の趣旨	1
(2) 計画の位置づけ	1
(3) 計画の期間	2
(4) 計画の構成	2
2 現状と課題	3
(1) スポーツを取り巻く社会環境	3
(2) 赤磐市のスポーツの現状と課題	3
① ライフステージに応じた運動・スポーツ活動	3
② 競技スポーツ活動	4
③ 学校における体育・スポーツ活動	4
④ 学校体育関係団体の活動	5
⑤ 障がい者スポーツへの理解と参加機会の確保	7
⑥ 地域と連携した運動・スポーツ活動	7
⑦ スポーツ教室等の開催状況	8
⑧ スポーツ施設機能の充実と活用	9
⑨ 学校開放の推進	12
(3) 運動・スポーツに関する市民意識調査の結果	13
① 調査の概要	13
② 一般（16歳以上）の意識調査結果	14
③ 小学生（5年）・中学生（2年）の意識調査結果	22
3 計画の基本理念	31
(1) スポーツのある豊かな暮らしを支える環境づくり	31
(2) 健全な心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進	31
(3) 互いの力を高めあう競技スポーツの推進	31
4 計画の体系	32

5 基本施策 33

- (1) スポーツのある豊かな暮らしを支える環境づくり 33
 - ① スポーツボランティア・スポーツリーダーの養成 34
 - ② 地域スポーツクラブの活性化 34
 - ③ 情報提供の充実 34
 - ④ 施設の整備と効率的な運営 35
 - ⑤ 表彰・奨励の充実 35
- (2) 健全な心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進 . . . 36
 - ① スポーツ・レクリエーション活動の推進 36
 - ② 児童・生徒のスポーツ活動の充実 36
 - ③ 高齢者・障がい者スポーツの推進 37
- (3) 互いの力を高めあう競技スポーツの推進 37
 - ① スポーツ関係団体との連携 37
 - ② 指導体制の強化 38
 - ③ ハイレベル技術に触れる機会の充実 38

6 計画の推進及び進行管理 39

- (1) 計画の推進 39
 - ① 市民の理解と協力 39
 - ② 市内スポーツ関係団体との連携 39
 - ③ 岡山県及び(財)岡山県スポーツ協会等との連携 39
 - ④ 学校・家庭・地域の連携 39
 - ⑤ 行政内部の連携 39
 - ⑥ 計画推進の財政措置 39
- (2) 進行管理 40
 - ① 情報の受発信 40
 - ② 計画の評価及び見直し 40

参考資料

- ◆ 体育施設一覧 41
- ◆ 赤磐市スポーツ推進計画策定会議名簿 44



「選手激励会」 市長からの激励を受ける選手の皆さん

1 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

赤磐市では「人“いきいき”まち“きらり”」を将来像に「活力のある、住みよい、住みたい、住み続けたい赤磐市」の実現のために、平成22年3月に「赤磐市スポーツ振興計画」を策定して以来、平成27年3月、誰もが気軽に楽しめるスポーツ推進を図るための基本方針となる「赤磐市スポーツ推進計画」を策定しました。そして、令和3年には東京2020オリンピックに伴い、ニュージーランド代表女子・カナダ代表男子ホッケーチームの事前キャンプを誘致し、「する、観る、支える」スポーツへの関わりを創出する環境づくりを推進してきました。

国では、平成22年8月に新たなスポーツ文化の確立を目指し、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」と「連携・協働の推進」を基本的な考え方とするスポーツ立国戦略を策定し、概ね10年間で実施すべきスポーツ施策の基本的な方向を示しました。

岡山県では、平成25年3月に生涯スポーツ社会の実現を目指すとともに、県下市町村のスポーツ振興の指針となる「岡山県スポーツ振興基本計画～晴れの国おかやま☆スポーツプラン～」を策定し、平成30年3月には、その計画を見直した「改訂版」を策定し、スポーツ推進に関する基本を定めて、県、市町村およびスポーツ団体の責務又は役割を明らかにするとともに、基本理念を実現するために取り組むべきスポーツの推進に関する施策の基本となる事項を定めた岡山県スポーツ推進条例を制定し、スポーツにかける想いを広く県民と共有するために、「スポーツ立県おかやま」宣言を行いました。

スポーツは、私たちに多くの力や活力を与えてくれます。具体的には、「する」ことによって得られる爽快感や達成感など精神的な充足感、「観る」ことによって得られる感動や喜び、「支える」ことによって得られる自己有用感や生きがいなどです。また、体力の向上、青少年の健全育成、地域の活性化等、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、健康維持や体力面だけでなく、人と人とのコミュニケーションをより豊かにし、明るく豊かで活力に満ちた生きがいのある人生を送ることに寄与するものです。さらに、人々が生活の一部にスポーツを取り入れ、生涯にわたってスポーツに親しむことは、ストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進のために有効であり、そのためにもスポーツに親しむ習慣を身に付けることが大切になってきます。

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツへの関心はますます高まり、スポーツへの関わり方も多様化してきました。とりわけ、赤磐市で行われる予定であった東京2020オリンピック聖火リレーへのボランティア参加希望者やランナーの意識には、前述のような生きがいや自己有用感が満ち溢れた感想が聞かれました。こうしたことから、市民のスポーツに関する多様なニーズに対応し、スポーツに親しみ、豊かな生活を実現していくために、第3次「赤磐市スポーツ推進計画」を策定します。

(2) 計画の位置づけ

スポーツ基本法第10条に規定された「地方スポーツ推進計画」であるとともに、「岡山県スポーツ推進計画」との整合性をもちながら、「赤磐市総合計画」に掲げる重点戦略Ⅲ「多彩な人材の活躍により、地域が活性化しているまちを創る」のスポーツ振興に関する個別事業計画として位置づけるものです。

(3) 計画の期間

本計画は、令和4年度から令和6年度までの3年間を基本とします。

また、計画の期間中であっても進捗状況や社会情勢等の変化に応じて、中間見直しを行う場合があります。

なお、前回の計画から改訂作業がずれ込みましたが、これは東京オリンピック開催によりスポーツに対する国民、赤磐市民の意識の変化を調査し、実態の把握することが有効と判断したものです。また、通常計画は5年単位で見直しますが、今回は、上位計画である赤磐市総合計画、教育振興基本計画等の計画期間に合わせたため、期間を3年間としています。

(4) 計画の構成

この計画は、「現状と課題」「基本理念」「基本施策」で構成しています。

はじめに「現状と課題」でスポーツを取りまく社会環境及び赤磐市の現状を踏まえつつ、市民意識調査の結果により、市におけるスポーツに関する課題を整理しています。

そして、「基本理念」で計画推進における基本となる考え方を示すとともに、「基本施策」でスポーツ推進に向けた基本的な推進方法を示しています。



キンボールを楽しむ子供たち（スポーツ推進委員派遣事業）



コロナ禍でも思いっきりのプレーを楽しむ児童たち（ドッジボール大会）

2 現状と課題

(1) スポーツを取り巻く社会環境

少子高齢化や高度情報化、国際化などが進み、人々の価値観やライフスタイルが多様化する中で、スポーツを取り巻く環境も大きく変化してきました。そのような変化に対応した取り組みとその後の情勢のさらなる変化等により、次のような課題が見られています。

小学生では、学習塾等の学校外での学習活動時間の増加やテレビゲーム等の室内遊びの増加傾向は続いています。一方で少年期のスポーツ活動の大切さが見直されたり、運動能力低下に課題を感じたりすることから、スポーツ活動に参加する意識の変化が見受けられます。しかし、依然として体力・運動能力の低下傾向がみられ、運動する子どもとしない子どもとの格差があり、二極化傾向が見受けられます。

中学生では、運動部活動に参加する生徒は依然として多くの割合を占めており、1週間の総運動時間量は全国平均よりも非常に高く、体力・運動能力は向上しており、全国平均を上回る結果になっています。また、小中学生に共通して、男子よりも女子の運動離れがやや強い傾向が見られます。

高齢者については、余暇を積極的に活用し、人生を生き生きと過ごそうとする意識の高揚からか、運動に親しむ人の割合が増加してきています。特に近年盛んになっているグラウンド・ゴルフ等を中心にニュースポーツやウォーキング等の参加者が増加して来たり、マスターズ大会等に参加したりする高齢者も増加傾向が見られます。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機として、スポーツへの関心が高まり、「する」スポーツが中心となり、クローズアップされることが多かった状況に変化が見られ、「観る」「支える」というスポーツへの関り方も多様化してきています。

そして、スポーツをすることの大きな効果である、意欲的に取り組む心を育んだり、協調性やコミュニケーション能力を高めたり、公正さや規律を尊ぶ態度や克己心を培ったりすることなどはもちろんのこと、高齢者にとっても、社会性の向上や介護予防につながる健康維持増進、生きがいのある充実した人生に繋がるということが、広く浸透してきているところです。

(2) 赤磐市のスポーツの現状と課題

① ライフステージに応じた運動・スポーツ活動

現在赤磐市には、生涯スポーツの推進という観点から、身近な地域において子どもから高齢者まで、さまざまなスポーツを愛好するための「総合型地域スポーツクラブ」が2クラブあります。クラブの活動は地域に密着した形で、その趣旨に則った活動が推進されていますが、クラブ数は現状のままで、広がっていくまでに至っておりません。高齢者は、自身の健康や生きがい作りの活動としてそれぞれの地域でスポーツ活動をする人が増加傾向にあります。幼児期のスポーツ活動は幼稚園、保育園やこども園で、身近な大人の深い愛情のもとで体を動かす気持ちよさを体験しているにとどまっています。毎年実施しているチャレンジデーへの参加結果や意識調査の結果から考察すると、青年期のスポーツ活動参加は、中高校生期の経験に左右されるところがあったり、仕事との両立が困難であったりすることから、活動が低調になっている傾向がみられます。

また、子どもの数の減少によって地域のスポーツ団体が成立しない状況が多くなった
り、中学校の部活動の廃部が増加したりするなど、スポーツを身近で行う環境の厳しさが
見受けられます。

② 競技スポーツ活動

赤磐市ゆかりのアスリートが世界や全国の舞台で活躍することは、競技スポーツに対する
関心と応援機運を高め、社会全体の活力を生み出すことに繋がります。そのため、オリ
ンピックやパラリンピック、国体等に出場する選手の発掘・育成のための競技力の向上と
指導者や人材の育成・養成が必要です。赤磐市における競技スポーツは、体育協会を中心
に加盟競技団体が行っていますが、計画的系統的なシステムが確立されていないのが現状
です。また、赤磐市を拠点に活動している岡山シーガルズ、わが町スポーツとして代表さ
れるホッケー競技では全国レベルで活躍している赤磐市出身選手をはじめ、部活動や地域
の所属団体に活躍し、優秀な成績を収めて、将来が期待される選手もいることから、それ
らの選手を応援したり見守ったりする気運の醸成も必要です。さらに、多くの種目で、全
国大会に出場したり全国上位の優秀な成績を収めたりする選手も出ていることから、激励
金制度を活用しながら、競技力の向上を支援して赤磐市輩出のトップレベル選手の育成に
努めていくことが重要です。

③ 学校における体育・スポーツ活動

赤磐市の児童の体力・運動能力の実態は、全国や県の平均に比べて低い傾向があります。
特に、女子は全種目を通じて全国平均よりも下回る結果となっており、中でも柔軟性と瞬
発力に課題がみられます。また、全般的に低水準の結果を改善するためには、生涯スポー
ツの基礎につながる運動に親しむ習慣化に向けて、様々な運動領域の経験を増やすよう
に、学校体育指導が重要な鍵となります。

中学校生徒の体力・運動能力は、県平均を上回る結果がほとんどで、小学校の記録と比
較して大きい伸びを示しています。このことは運動部活動の参加率が高く、その活動も熱
心に行っていることによることも大きな要因と考えられます。しかし、運動部活動の実態
は、少子化に伴う生徒数の減少により、単独校でのチーム編成が困難な状態が生じている
ことに加えて、クラス数の減少に伴う教員数の減少から部活動顧問確保が難しいうえに、
教員の指導力不足や働き方改革による部活動時間の減少なども課題となっています。岡山
県教育委員会と連携して、外部指導者を活用していますが、チーム編成とのバランスを考
えたときに、種目拠点校形式や社会体育との連携を視野に入れた改革を模索していく必要
があります。また、全体的傾向として児童生徒の運動習慣が定着してきているにも関わら
ず、小中学校に共通して、女子の児童生徒の体力が男子に比べてやや低い傾向にあること
が課題として捉えることができます。

④ 学校体育関係団体の活動

赤磐市の学校体育関係団体としては、小学校体育連盟と中学校体育連盟が活動しています。小学校体育連盟は、教員の体育指導力向上に向けて、毎年学校を指定して研究授業を行ったり、水泳指導の技術向上のための水泳指導研修会を毎年行ったりしています。また、赤磐市水泳記録会と陸上記録会を毎年実施してきましたが、コロナの影響により、令和2年度と3年度は実施を見合わせています。

一方、中学校体育連盟は、調査研究部が中心になり、毎年体育授業力の向上を目指して研究授業を行ない、市内の体育科教員が研修を深めて、授業力の向上を図っています。また、ダンス部会主催により、毎年各学校代表が集まってダンス発表会を行ったり、公開授業を行ったりしてダンス授業の向上に努めています。さらに、競技力の向上と各学校部活動の成果を発揮する場として、春夏の赤磐市総合体育大会を開催しています。

表 赤磐市立中学校運動部活動加入状況

種 目	年度	設置校数	男子(人)	女子(人)	計(人)
陸上競技	平成 25 年度	1	22	3	25
	令和 2 年度	1	16	7	23
バスケットボール	平成 25 年度	4	79	47	126
	令和 2 年度	4	75	47	122
サッカー	平成 25 年度	2	82	1	83
	令和 2 年度	2	53	2	55
軟式野球	平成 25 年度	5	114	1	115
	令和 2 年度	5	53	2	55
バレーボール	平成 25 年度	4	0	30	30
	令和 2 年度	2	0	37	37
ソフトテニス	平成 25 年度	5	117	88	205
	令和 2 年度	5	138	87	225
卓球	平成 25 年度	1	22	7	29
	令和 2 年度	1	36	25	61
バドミントン	平成 25 年度	1	0	33	33
	令和 2 年度	1	0	25	25
柔道	平成 25 年度	3	38	9	47
	令和 2 年度	3	28	8	36
剣道	平成 25 年度	5	23	16	39
	令和 2 年度	5	32	15	47
ホッケー	平成 25 年度	1	17	7	24
	令和 2 年度	1	11	12	23
部 員 数 計	平成 25 年度		514	242	756
	令和 2 年度		442	267	709
生 徒 数 計	平成 25 年度		675	561	1,236
	令和 2 年度		592	555	1,147
入 部 率	平成 25 年度		76.15%	43.14%	61.17%
	令和 2 年度		74.66%	48.11%	61.81%
岡山県入部率（令和 2 年度）			80.6%	55.8%	68.5%

※ 令和 3 年度現在の最新データを掲載

表 児童・生徒の体力・運動能力テスト (令和3年12月現在の最新データを掲載 R2年度は未実施)

※△は全国平均より劣るもの

小学校5年生男子		種目別平均値							
区分		握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)
赤磐市	平成25年度	16.75	20.71	31.42	41.69	53.99	9.22	153.96	23.72
	令和元年度	16.11	19.55	32.26	42.37	51.53	9.50	149.98	21.04
岡山県	令和元年度	15.79	19.90	32.16	42.28	49.69	9.37	152.69	21.55
全国	令和元年度	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61
H25とR1の比較		△ 0.64	△ 1.16	0.84	0.68	△ 2.46	△ 0.28	△ 3.98	△ 2.68
赤磐市と岡山県の比較		0.32	△ 0.35	0.10	0.09	1.84	△ 0.13	△ 2.71	△ 0.51
赤磐市と全国の比較		△ 0.26	△ 0.25	△ 0.98	0.63	1.21	△ 0.08	△ 1.47	△ 0.57

小学校5年生女子		種目別平均値							
区分		握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)
赤磐市	平成25年度	15.53	17.74	35.23	38.33	40.00	9.56	144.68	14.02
	令和元年度	15.31	17.63	35.31	39.94	38.46	9.76	141.73	11.94
岡山県	令和元年度	15.55	18.77	36.33	40.31	39.36	9.60	145.94	13.44
全国	令和元年度	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61
H25とR1の比較		△ 0.22	△ 0.11	0.08	1.61	△ 1.54	△ 0.20	△ 2.95	△ 2.08
赤磐市と岡山県の比較		△ 0.24	△ 1.14	△ 1.02	△ 0.37	△ 0.90	△ 0.16	△ 4.21	△ 1.50
赤磐市と全国の比較		△ 0.78	△ 1.32	△ 2.31	△ 0.20	△ 2.33	△ 0.12	△ 3.95	△ 1.67

中学校2年生男子		種目別平均値							
区分		握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ハンドボール投げ(m)
赤磐市	平成25年度	29.21	26.96	43.52	51.82	80.88	8.03	194.16	20.61
	令和元年度	27.95	26.81	44.75	52.62	84.33	7.90	198.20	19.18
岡山県	令和元年度	29.01	26.63	44.43	52.84	80.88	7.90	196.00	20.70
全国	令和元年度	28.65	26.96	43.50	51.91	83.53	8.02	195.03	20.40
H25とR1の比較		△ 1.26	△ 0.15	1.23	0.80	3.45	0.13	4.04	△ 1.43
赤磐市と岡山県の比較		△ 1.06	0.18	0.32	△ 0.22	3.45	0.00	2.20	△ 1.52
赤磐市と全国の比較		△ 0.70	△ 0.15	1.25	0.71	0.8	0.12	3.17	△ 1.22

中学校2年生女子		種目別平均値							
区分		握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ハンドボール投げ(m)
赤磐市	平成25年度	23.48	21.69	42.76	46.06	52.07	8.81	168.33	13.06
	令和元年度	24.38	21.84	46.75	49.88	56.60	8.65	176.98	13.40
岡山県	令和元年度	24.10	23.07	46.96	47.69	55.83	8.73	170.30	13.30
全国	令和元年度	23.79	23.69	46.32	47.28	58.31	8.81	169.90	12.96
H25とR1の比較		0.90	0.15	3.99	3.82	4.53	0.16	8.65	0.34
赤磐市と岡山県の比較		0.28	△ 1.23	△ 0.21	2.19	0.77	0.08	6.68	0.10
赤磐市と全国の比較		0.59	△ 1.85	0.43	2.60	△ 1.71	0.16	7.08	0.44

○平成25年度との比較では、小学生は低下傾向、中学生は向上傾向にある。

○全国および岡山県との比較では、次のような特徴がある。

- ・小5男子は、半数の種目で下回り、小5女子では、全種目で下回っていることから、小学生の体力低下が課題である。
- ・中2男子では、投力と筋力(握力)、中2女子では、筋持久力が課題である。

⑤ 障がい者スポーツへの理解と参加機会の確保

スポーツは、障がいのある人にとって総合的なリハビリテーションに有用であるとともに、障がいのある人の社会参加の推進や市民の障がいに対する正しい理解と認識を深め、共生社会に寄与するものです。また、東京2020パラリンピック開催に伴い、障がい者の競技スポーツへの参加や観戦等の意識が高まってきています。赤磐市では、障がい者のスポーツ活動はそれぞれの団体に所属して活発に行われているものの、全国障がい者スポーツ大会への参加率は低い状況です。赤磐市全体では、障がい者のスポーツ参加に対する意識の高揚が望まれるところです。

⑥ 地域と連携した運動・スポーツ活動

総合型地域スポーツクラブは、多種目、多世代、多志向のクラブとして、現在「吉井スポレククラブ」と「一般社団法人EL SOL」の2団体が登録して活動しています。

また、赤磐市スポーツ推進委員会は、現在20名の委員で活動しており、生涯スポーツの担い手、地域スポーツ推進の要としてスポーツ指導や普及活動を実践しています。また、スポーツ団体としては、22の加盟競技団体で構成された赤磐市体育協会や6種目13単位団からなるスポーツ少年団があります。各団体の構成や種目などは、以下の表に示したとおりです。

表 社会体育関係委員（令和2年度）

職名	委員数	任期
スポーツ推進委員	20人	2年

表 社会体育関係団体（令和2年度）種目にある（ ）内はR2.7.1現在の会員数

赤磐市体育協会加盟競技種目（加盟競技団体：22協会 人数：2,374人）		
<ul style="list-style-type: none"> ・軟式野球(113) ・バレーボール(300) ・テニス(105) ・ソフトテニス(39) ・卓球(268) ・柔道(152) ・バドミントン(180) ・射撃(74) ・ゴルフ(242) ・グラウンド・ゴルフ(319) ・サッカー(100) ・中国武術太極拳気功(16) ・綱引き(10) ・スキー(18) ・合気道(34) ・少林寺拳法(19) ・ホッケー(60) ・スポーツ吹矢(62) ・バスケットボール(239) ・ペタンク(24) (休会中) ・陸上競技 ・剣道 		
赤磐市スポーツ少年団活動種目（登録団体13団）		
<ul style="list-style-type: none"> ・軟式野球（4団） ・ソフトボール（3団） ・バレーボール（2団） ・剣道（2団） ・バスケットボール（1団） ・キッズ・ニュースポーツ、陸上（1団） 		



カナダ代表ホッケーチームオリンピック直前キャンプ（小学生制作の歓迎幕の前で）

表 スポーツ少年団登録人数の推移

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
総団員数	324	305	282	275	270	251	243
軟式野球	102	97	96	94	80	88	76
ソフトボール	62	58	38	50	43	34	28
バレーボール	46	34	25	17	30	20	21
剣道	30	36	34	35	46	38	38
バスケットボール	42	44	51	49	43	43	50
キッズ・ニュースポーツ, 陸上	42	36	38	30	28	37	30
小学生加入率 ※1	13.38%	12.89%	11.70%	11.48%	11.18%	10.30%	10.00%
指導者数 ※2	183	171	163	166	168	69	63
有資格指導者数 ※3	85	89	76	79	85	69	63

※1 小学生加入率＝市内小学生登録数÷市立小学生児童数

※2 R2年度から、有資格者のみ指導者としてカウントするよう指示があったため極端に減少

※3 有資格者指導者：スポーツ少年団認定育成員及び認定者

※過去7年間のデータを掲載しています

⑦ スポーツ教室等の開催状況

全市民を対象としてのスポレクフェステ赤磐、チャレンジデー、ドッジボール大会などのスポーツイベントを開催しています。また、スポーツ教室としては、スポーツ安全教室などを開催しています。

今後は、市民意識調査などを参考に多様なニーズに対応するスポーツ教室等の開催を計画する必要があります。また、市体育協会の各加盟競技団体や総合型地域スポーツクラブ等が主催する教室や事業などとの連携も必要となります。

※以下の資料は、コロナの影響がないデータを比較するため、H29・30の結果を掲載しています。

表 社会体育関係事業実績（平成30年度） ※ コロナ禍前の状況としてH30とH29を掲載

(1) 生涯スポーツ事業の推進・指導者養成（全域）

名 称		延参加人数	
		平成30年度	平成29年度
教 室	スポーツ安全教室	103人	157人
	小学生ドッジボール教室	20人	43人
	ファミリースポーツまつり	72人	65人
	ジュニアグラウンド・ゴルフ教室	128人	62人
大 会	磐梨旗争奪柔道大会	200人（38チーム）	167人（33チーム）
	小学生ドッジボール大会	183人	230人
	市民グラウンド・ゴルフ大会	277人	298人
イ ベ ント	スポレクフェステ赤磐	中止	3,500人
	チャレンジデー	27,540人	27,571人

(2) 生涯スポーツ事業の推進（熊山）

名 称		延参加人数	
		平成30年度	平成29年度
教 室	ノルディックウォーク体験教室	25人	18人

(3) 生涯スポーツ事業の推進（吉井）

名 称		延参加人数	
		平成 30 年度	平成 29 年度
大 会	吉井つちのこ駅伝大会	225 人(38 チーム)	263 人(44 チーム)
	吉井地域ソフトボール大会	97 人(6 チーム)	122 人(8 チーム)

⑧ スポーツ施設機能の充実と活用

赤磐市のスポーツ施設については体育館、屋内プール、野球場、テニスコート、多目的広場など数多くの施設があります。また、トレーニングルームや多目的ホールなど体育館や施設に付随した施設もあります。山陽ふれあい公園をはじめ施設改修および部分的に施設修繕をおこなってきましたが、老朽化が進んでいることや地理的に遠い施設であったり市民のスポーツニーズが多様化してきたりしたことなどから市民要求を十分に満たしていない状況にあります。また、利用状況においても、人口減などにより利用率が低下している施設も少なくありません。

現在の厳しい財政のもとでは、新たな施設を建設することは困難な状況にあります。今後においては、既存施設の改修や適切な管理、設備の更新やレベルアップなどにより、競技スポーツや生涯スポーツの推進を目指し、さらに、観るスポーツにも対応した魅力あるスポーツ空間の整備が必要となります。

学校体育施設開放利用状況

(1) 学校体育施設（山陽）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
山 陽 小 学 校	320	315	7,417	7,535
山 陽 西 小 学 校	479	442	5,948	5,620
山 陽 東 小 学 校	413	422	10,331	10,624
山 陽 北 小 学 校	500	576	9,385	9,118
高 陽 中 学 校	679	688	11,079	10,848
桜 が 丘 中 学 校	495	578	8,753	8,858

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(21), ソフトボール(1), 卓球(6), バドミントン(9), 空手(2), サッカー(1), 軟式野球(4), 剣道(2), ニュースポーツ(1), 柔道(1), バスケットボール(8), フットサル(2), 合気道(2), 綱引き(1), 陸上競技(2), 日本拳法(1), ドッジボール(1), 児童クラブ(1)

(2) 学校体育施設（赤坂）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
石 相 小 学 校	246	247	6,399	6,867
軽 部 小 学 校	324	323	6,068	4,399
笹 岡 小 学 校	3	54	70	572
赤 坂 中 学 校	126	86	2,829	1,495

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(1), ソフトボール(1), 剣道(1), レクリエーション(2), ソフトバレーボール(4), バドミントン(1), グラウンド・ゴルフ(1)

(3) 学校体育施設（熊山）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
桜が丘小学校	542	549	8,156	8,027
磐梨小学校	187	237	1,884	2,900
豊田小学校	267	270	3,351	3,872
磐梨中学校	188	161	2,752	1,748

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(4), ソフトボール(3), バドミントン(2), サッカー(2), ホッケー(1), 日本拳法(1), バスケットボール(3), 空手(1), 学童保育(1), フットサル(2)

(4) 学校体育施設（吉井）

学 校	利用件数（件）		利用人数（人）	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
仁美小学校	104	48	2,600	750
城南小学校	276	288	4,890	4,147
吉井中学校	107	96	1,703	1,497

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(3), ソフトボール・サッカー(1), レクリエーション(1)

ふれあい公園利用状況

平成26年4月1日から赤磐ふれあい共同事業体による指定管理となった。

施設分類		年度	利用件数 (件)	利用人数 (人)	1か月平均 利用人数 (人)	1日平均 利用人数 (人)	開放日数 (日)
体育館	一般開放	30	3,016	62,211	5,185	205	304
		29	3,378	64,967	5,414	217	300
	無料開放	30	—	2,756	—	918	3
		29	—	3,640	—	1,214	3
トレーニング ルーム	一般開放	30	—	16,044	1,337	53	304
		29	—	15,905	1,326	54	300
	無料開放	30	—	198	—	66	3
		29	—	232	—	78	3
屋内 プール	一般開放	30	—	38,847	3,238	128	300
		29	—	32,873	2,740	112	295
	無料開放	30	—	278	—	93	3
		29	—	422	—	141	3
フィットネスコート		30	1,200	10,212	851	34	304
		29	1,067	9,574	798	32	303
多目的広場外		30	500	20,990	1,750	70	304
		29	494	25,305	2,109	84	303
合 計		30	—	148,304	12,359	472	304
		29	—	152,918	12,743	507	303

グラウンド・ゴルフ場利用状況

平成25年4月1日から公益社団法人赤磐市シルバー人材センターによる指定管理となった。

施設分類	利用日数（日）		利用人数（人）		年間利用券の購入者数 (人)	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
グラウンド・ゴルフ場	339	338	34,996	35,303	278	251

桜が丘運動公園利用状況

平成26年4月1日から赤磐ふれあい共同事業体による指定管理となった。

施設分類	利用件数(件)		利用人数(人)	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
野球場	142	126	9,806	6,557
(内ナイター使用)	48	44	1,512	1,280
運動場	95	81	10,639	6,136
テニス場 (会員制)	平成30年度	市内100人	市外9人	計109人
	平成29年度	市内123人	市外11人	計134人

赤坂ファミリー公園利用状況

施設分類	利用件数(件)		利用人数(人)	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
多目的広場	214	248	21,680	22,994
(内ナイター使用)	94	102	4,645	4,380
テニスコート	2,156	1,051	9,755	9,896
(内ナイター使用)	1,426	116	2,541	679

※ 定期利用団体利用種目・(団体数) テニス(5)

赤坂体育センター利用状況

施設分類	利用件数(件)		利用人数(人)	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
メインアリーナ	795	737	12,599	12,053
サブアリーナ	92	45	2,025	1,072
研修室	0	0	0	0

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(4), バドミントン(2), フットサル(4), ソフトバレーボール(1)

熊山運動公園利用状況

施設分類	利用件数(件)		利用人数(人)	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
野球場	44	177	1,573	5,299
多目的広場	111	482	5,047	13,439
(内ナイター使用)	40	216	946	4,744
テニスコート	203	775	2,901	10,680
(内ナイター使用)	51	227	572	2,395

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

軟式野球(1), ホッケー(4), フットサル(1), テニス(5)

※ H30年度は、多目的広場改修工事のため施設閉鎖に伴い、利用者減となっています。

熊山武道館利用状況

施設分類	利用件数(件)		利用人数(人)	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
熊山武道館	1,159	1,192	36,329	42,099

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

柔道(2), 剣道(1), 卓球(1), 空手(1), 合気道(1)

B & G海洋センター利用状況

平成28年4月1日から吉井スポレククラブによる指定管理となった。

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
プール	3,291	3,709	5,325	6,333
アリーナ	289	294	4,764	3,856
サブアリーナ	218	262	2,299	1,978
トレーニングルーム	1,573	1,621	1,573	1,621
ミーティングルーム	43	36	822	582

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

バレーボール(1), ソフトバレーボール(1), 吉井スポレククラブ(6)

その他の体育施設利用状況

(1) 山陽地域

平成26年4月1日から赤磐ふれあい共同事業体による指定管理となった。

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
西山グラウンド	284	240	5,484	4,459

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

軟式野球(1), グラウンド・ゴルフ(2)

(2) 吉井地域

吉井グラウンド、草生多目的広場、草生テニスコートは、平成28年4月1日から吉井スポレククラブによる指定管理となった。

施設分類	利用件数（件）		利用人数（人）	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
吉井グラウンド	112	93	4,421	3,766
草生多目的広場	58	72	4,153	4,288
草生テニスコート	262	290	3,652	3,582
仁堀中テニスコート	—	—	—	—
仁堀中多目的広場	4	10	198	340
吉井武道館	5	18	597	729

※ 定期利用団体利用種目・(団体数)

ソフトテニス(2), 吉井スポレククラブ(2)

⑨ 学校開放の推進

本計画の基本理念である「生涯にわたるスポーツライフの実現」に向けた環境の整備を行うためには、地域の身近なスポーツ施設を活用することが重要なポイントとなります。市では、以前から学校施設開放事業に取り組み、全ての小中学校体育館及びグラウンドが地域に開放され、広く市民に利用されています。現在の利用状況は、市南部地域においては利用率が高く、特に体育館については飽和状況にあります。一方、市北部地域の利用状況は少子高齢化等により年々減少傾向にあり、地域間格差が生じています。

地域共通の財産である学校施設は、地域スポーツクラブの中心的活動の場として想定しています。その意味からも一層活用しやすい学校施設のあり方が求められており、「開放利用型」から学校と地域社会の「共同利用型」へと移行させ、空きスペースをクラブハウスなどとして利用するなど、学校開放をより一層推進し、多くの市民が学校施設を利用できるような環境を整える必要があります。

学 校 名	定期利用 登録団体数	利用件数	利用人数
山陽小学校	9	242	4,846
山陽西小学校	11	430	6,321
山陽東小学校	13	322	7,356
山陽北小学校	10	266	4,860
高陽中学校	3	316	7,482
石相小学校	4	329	4,568
軽部小学校	0	0	0
笹岡小学校	7	386	6,480
桜が丘小学校	5	126	1,484
盤梨小学校	4	185	2,599
豊田小学校	1	102	2,652
仁美小学校	2	261	4,890
城南小学校	16	592	9,825
桜が丘中学校	12	586	11,410
赤坂中学校	3	119	2,956
盤梨中学校	5	189	2,659
吉井中学校	2	121	1,907

(3) 運動・スポーツに関する市民意識調査の結果

① 調査の概要

○調査対象者

- ・市内に在住する「小学校5年生」、「中学校2年生」、「16歳以上」の市民を対象

○抽出方法

- ・小学生、中学生は市内公立全学校を対象
- ・16歳以上の市民については、無作為抽出

○調査方法

- ・小中学生については、質問紙調査で学級ごとに実施し学校を通じて配付回収
- ・16歳以上の市民については、質問紙調査で郵送により配付回収

○調査期間 令和2年10月1日～令和2年10月30日

○回収状況

- ・小学生、中学生

調査対象人数 760人 回収数 724人 回収率 95.2%(前回94.7%)

- ・16歳以上の市民

調査対象人数 2,051人 回収数 966人 回収率 47.2%(前回43.3%)

○回収内訳

年 齢(歳)		16～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男 性	人 数	48(33)	48(44)	58(48)	72(74)	99(90)	114(94)	439(383)
	割合 (%)	10.9	10.9	13.2	16.4	22.6	26.0	100
女 性	人 数	55(54)	74(69)	83(74)	100(87)	121(121)	92(78)	527(483)
	割合 (%)	10.4	14.0	15.7	19.0	23.0	17.5	100
計	人 数	103(87)	122(113)	141(122)	172(161)	220(211)	206(172)	966(866)
	割合 (%)	10.7	12.6	14.6	17.8	22.8	21.3	100
学 年		小学5年	中学2年	計				
男 子(人)		183	179	362				
女 子(人)		191	171	362				
計 (人)		374	350	724				

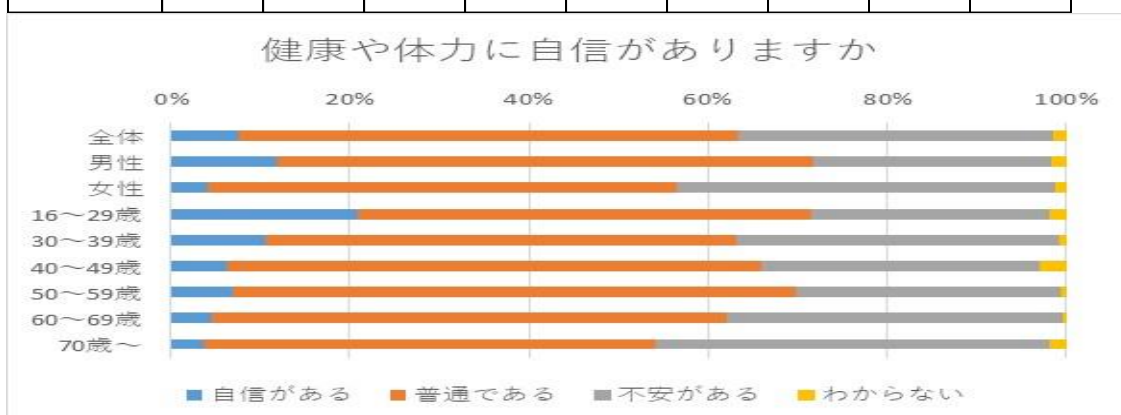
② 一般（16歳以上）の意識調査結果

運動・スポーツ、健康に関する意識

○設問4 ご自身の体力についてどのように感じていますか。

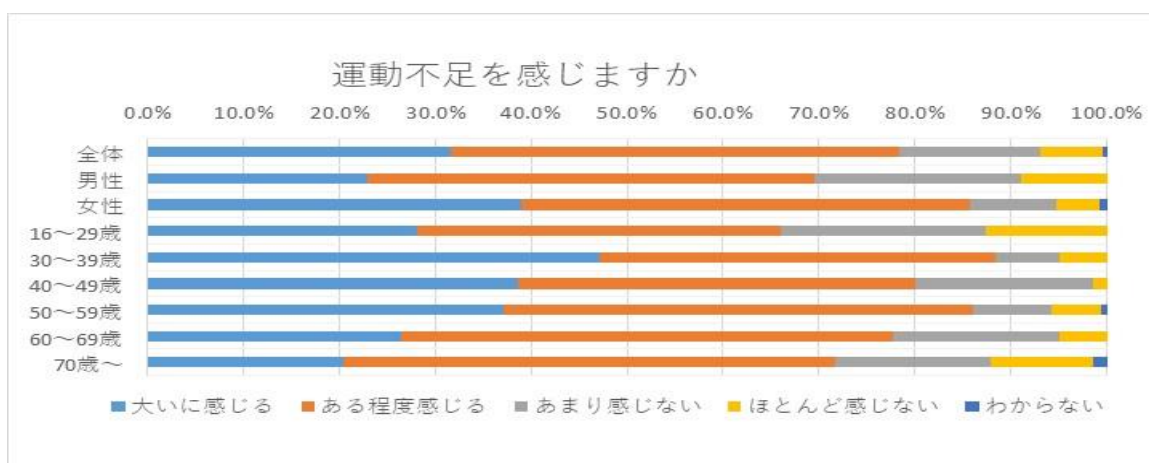
- ・「不安がある」と感じている人は前回 29.0%だが、今回 35.2%とやや増加している。
- ・男女別で見ると「不安がある」と感じている人の割合は女性の 42.4%が男性の 26.6%を大きく上回っている。
- ・年齢が上がるにつれて「自信がある」人の割合は減少している傾向が見られる。

	全体	男性	女性	16～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
自信がある	7.7%	11.9%	4.2%	21.0%	10.7%	6.4%	7.0%	4.6%	3.8%
普通である	55.7%	59.9%	52.3%	50.5%	52.5%	59.6%	62.8%	57.5%	50.2%
不安がある	35.2%	26.6%	42.4%	26.7%	36.1%	31.2%	29.7%	37.4%	44.0%
わからない	1.4%	1.6%	1.1%	1.9%	0.8%	2.8%	0.6%	0.5%	1.9%



○設問5 運動不足を感じますか。

- ・全体で見ると「大いに感じる」と「ある程度感じる」をあわせて、運動不足を感じる人は、前回 75.3%、今回 78.4%で、ほぼ同様の傾向を示している。
- ・年代別で見ると 30 歳代と 40 歳代が 80%以上で、働き盛りの人の運動不足感が高い。

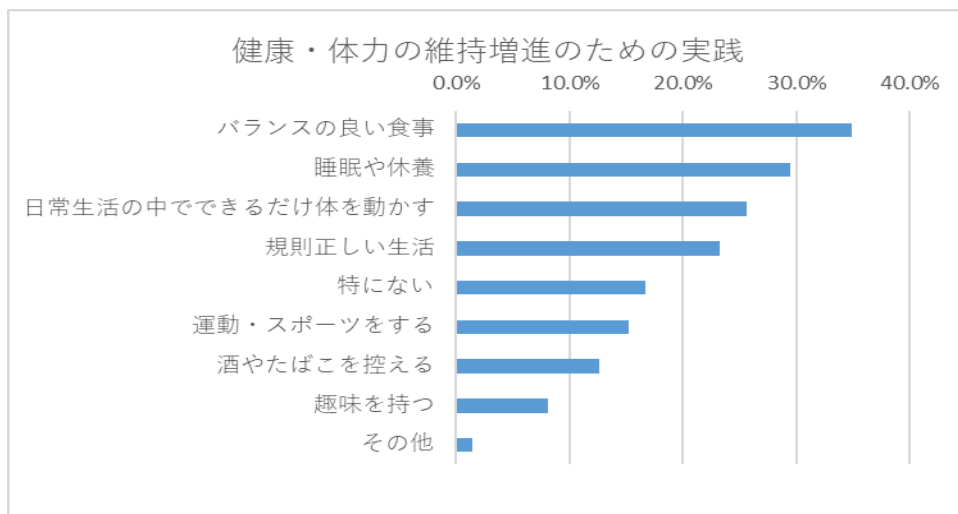


	全体	男性	女性	16～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
大いに感じる	31.7%	22.9%	38.9%	28.2%	47.1%	38.6%	37.2%	26.5%	20.5%
ある程度感じる	46.7%	46.6%	46.8%	37.9%	41.3%	41.4%	48.8%	51.1%	51.2%
あまり感じない	14.7%	21.6%	9.0%	21.4%	6.6%	18.6%	8.1%	17.4%	16.1%
ほとんど感じない	6.6%	8.9%	4.6%	12.6%	5.0%	1.4%	5.2%	5.0%	10.7%
わからない	0.4%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.5%

○設問6 健康や体力の維持増進のために実践していることがありますか。(2つ以内で選択)

「食事」「睡眠や休養」「日常生活で体を動かす」など日ごろの生活に即したことが上位を占めている。

年代別で特徴的なのは60歳～69歳、70歳以上の2位に「運動・スポーツ」が入っている。



【年代別上位3位】

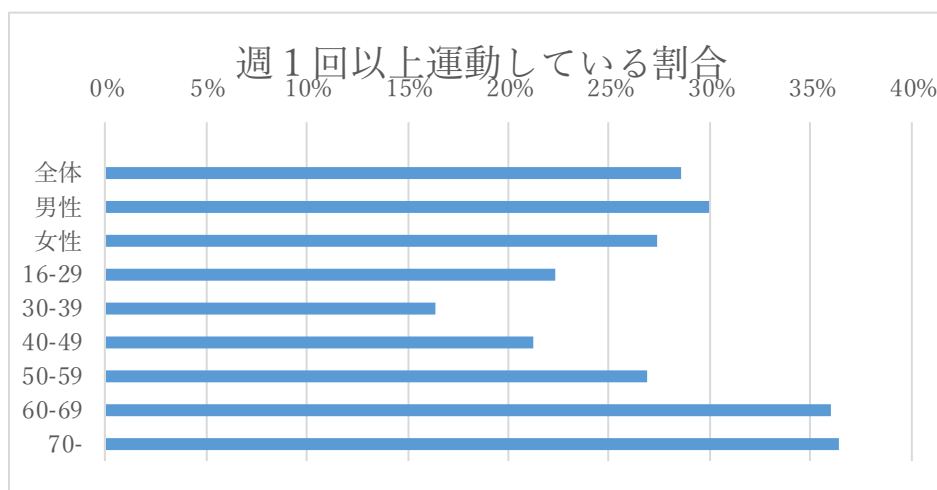
	16～29歳 n=86	30～39歳 n=112	40～49歳 n=120	50～59歳 n=160	60～69歳 n=209	70歳以上 n=171
1位	睡眠や休養 30人	食事 38人	睡眠や休養 47人	睡眠や休養 65人	睡眠や休養 92人	睡眠や休養 80人
2位	食事 21人	睡眠や休養 37人	食事 38人	食事 46人	運動スポーツ 67人	運動スポーツ 68人
3位	生活リズム 17人	生活リズム 25人	生活リズム 28人	生活リズム 41人	生活リズム 63人	食事 49人

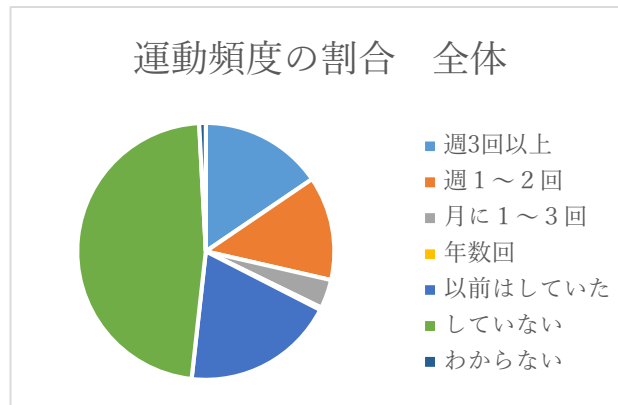
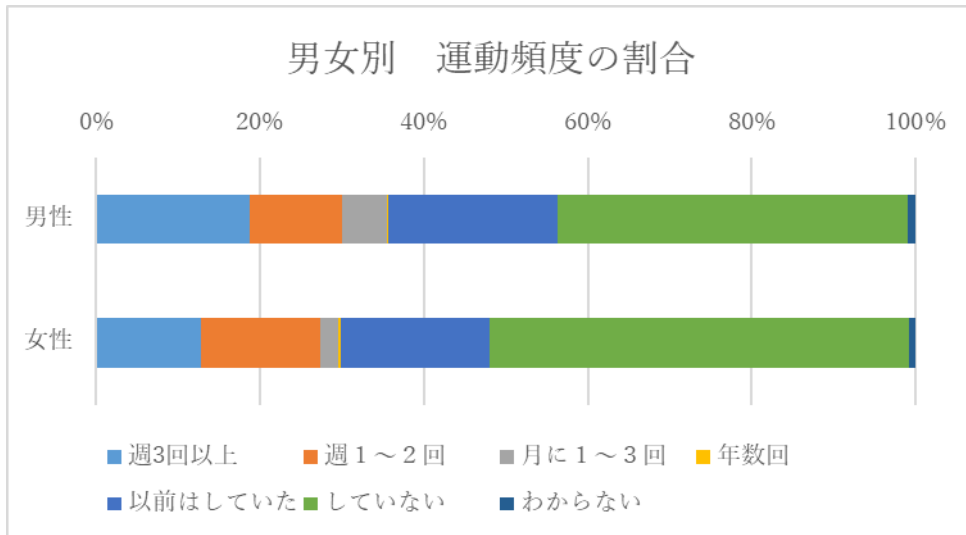
運動・スポーツの実施状況

○設問7 普段、意識して運動・スポーツをしていますか。

○設問9 どれくらいの割合で運動・スポーツをしていますか。

全体でみると、頻度に関わらず現在週1回以上運動・スポーツをしている人は28.6%、現在していない人は66.6%で、していない人の割合が非常に高い。週1回以上の運動・スポーツの実施率は年代により差があり、年代があがるにつれて割合が高くなっている。





設問7・9	週3回以上	週1~2回	月に1~3回	年数回	以前していた	していない	わからない	
男性	82	49	24	1	90	187	4	437
女性	67	77	11	2	95	269	4	525
全体	149	126	35	3	185	456	8	962
	15.5%	13.1%	3.6%	0.3%	19.2%	47.4%	0.8%	100%

週1回以上運動している人の割合			
平成25年	全体 : 28.1%	男性 : 31.8%	女性 : 25.1%
令和元年	全体 : 28.6%	男性 : 30.1%	女性 : 27.5%



ニュースポーツ (インドアカップ) 体験の様子

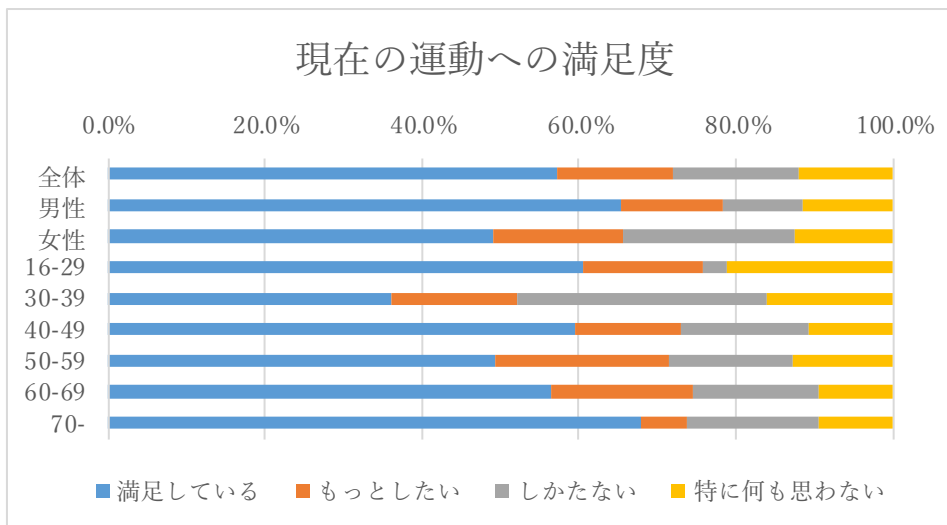
運動・スポーツの満足感

○設問 14 自分の行っている運動・スポーツに満足していますか。

【現在運動をしている人が回答】

運動している人のうち回答のあった366人において、57.1%の人が「満足している」と回答している。また、「満足していないのでもっとしたい」14.9%と「満足していないがしかたない」16.1%とあわせて満足していない人は31.0%であった。

年代別の傾向は、前回調査（平成25年）とほぼ同様で、「満足している」度合いが最も低いのは30歳代で、前回46.2%で、今回は36.0%であった。逆に、29歳以下と70歳以上の人は、6割以上が「満足している」と考えている。



	全体	男性	女性	16～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
満足している	57.1%	65.3%	49.1%	60.6%	36.0%	59.5%	49.2%	56.4%	67.9%
もっとしたい	14.9%	13.2%	16.6%	15.2%	16.0%	13.5%	22.2%	18.1%	6.0%
しかたない	16.1%	10.2%	21.9%	3.0%	32.0%	16.2%	15.9%	16.0%	16.7%
特に何も思わない	11.9%	11.4%	12.4%	21.2%	16.0%	10.8%	12.7%	9.6%	9.5%

○設問 15 満足していない理由は何ですか。（2つ以内で選択）

【現在の運動実施状況に満足していない人が回答】

- ・前回調査と同様で、「運動時間が短い」がもっとも多い理由であった。
- ・「場所や施設が少ない」という理由が上位に来ている傾向も、前回調査と同様であった。

複数（2つまで）回答可	全体(n=101)	男性(n=38)	女性(n=63)
運動する時間が短い	42.6%	40.4%	52.4%
近くに場所や施設がない	18.9%	19.1%	22.2%
教室や講習会が少ない	9.0%	6.4%	12.7%
教えてくれる人がいない	4.9%	6.4%	4.8%
仲間がいない	4.1%	6.4%	3.2%
その他	20.5%	21.3%	23.8%



磐梨旗柔道大会で熱戦を繰り広げる小学生



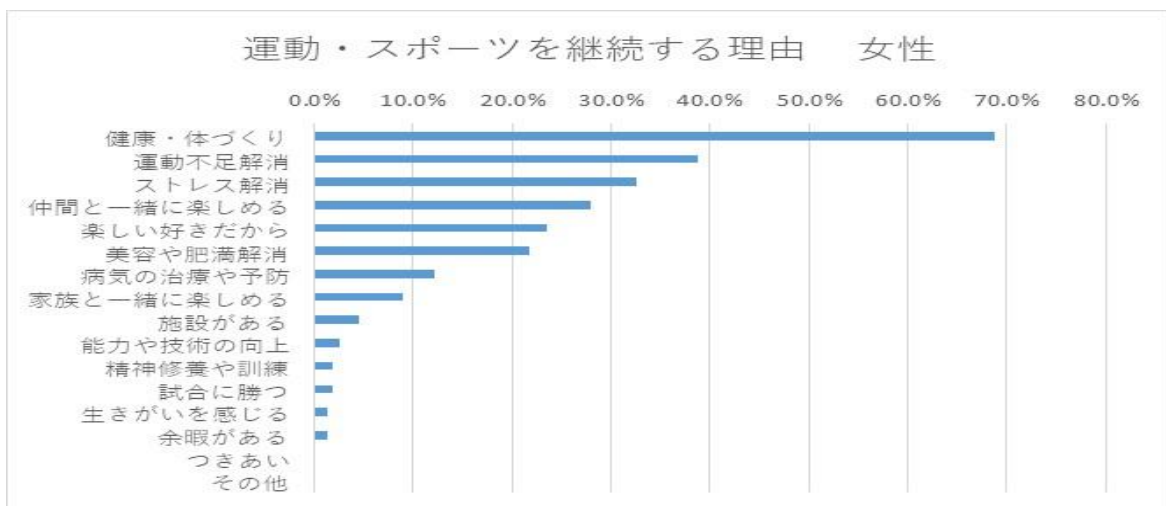
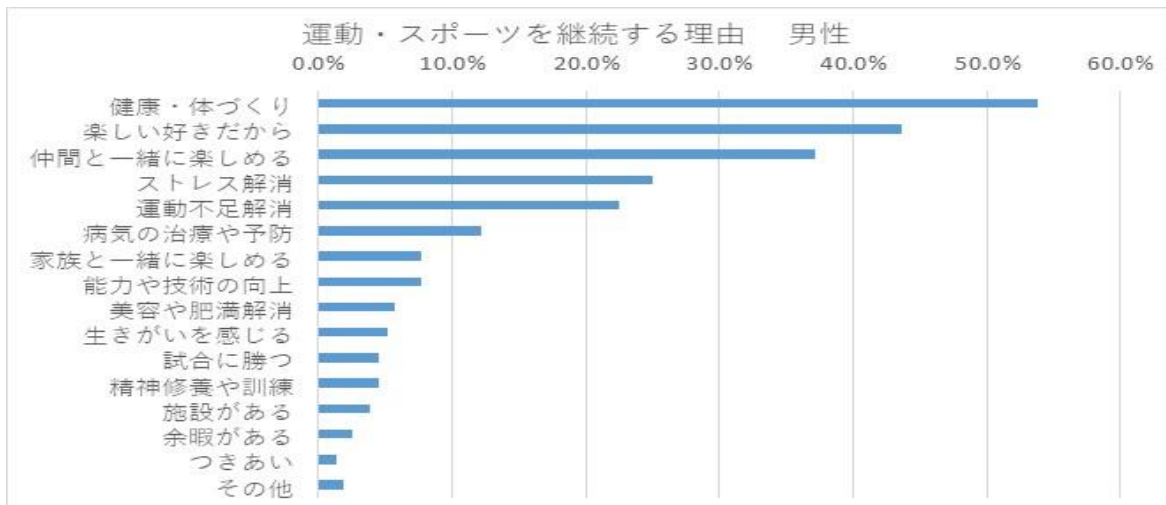
磐梨旗柔道大会で勢揃いの参加者

運動・スポーツに対する価値観

○設問 17 運動・スポーツを続けている理由は何ですか。(3つ以内で選択)

【現在運動をしている人が回答】

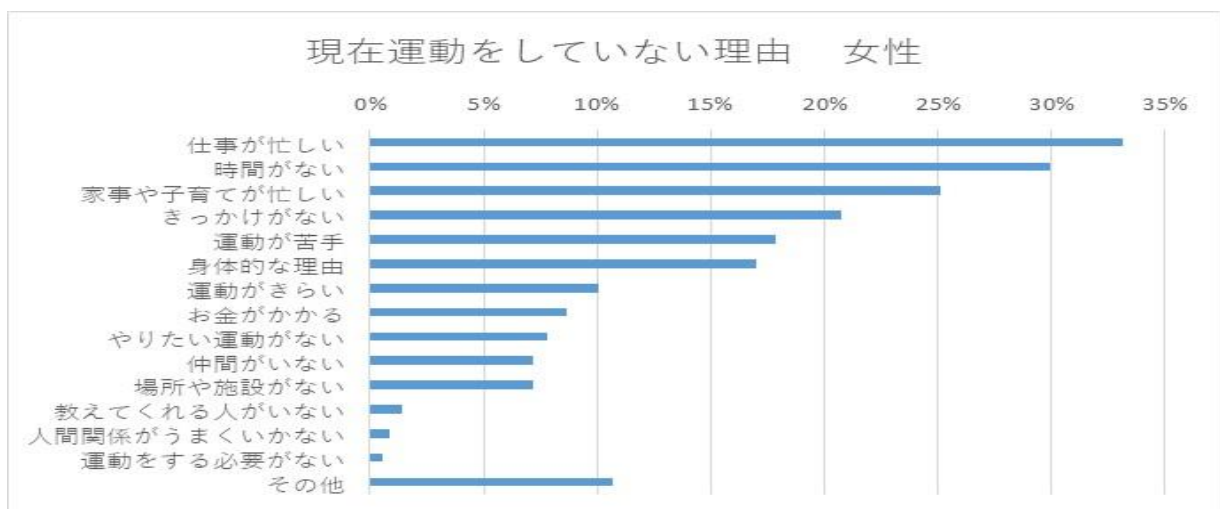
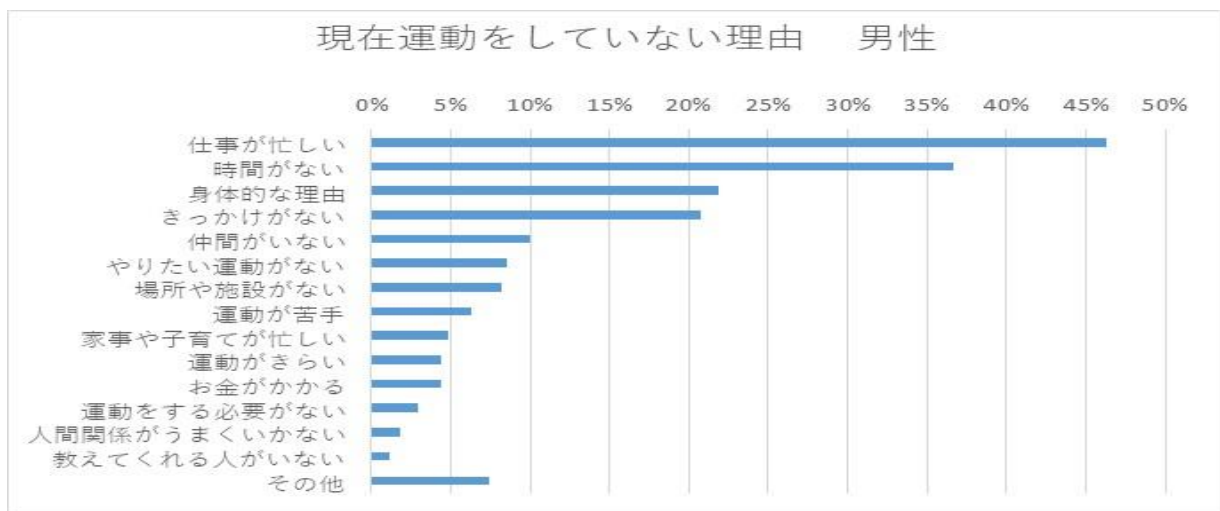
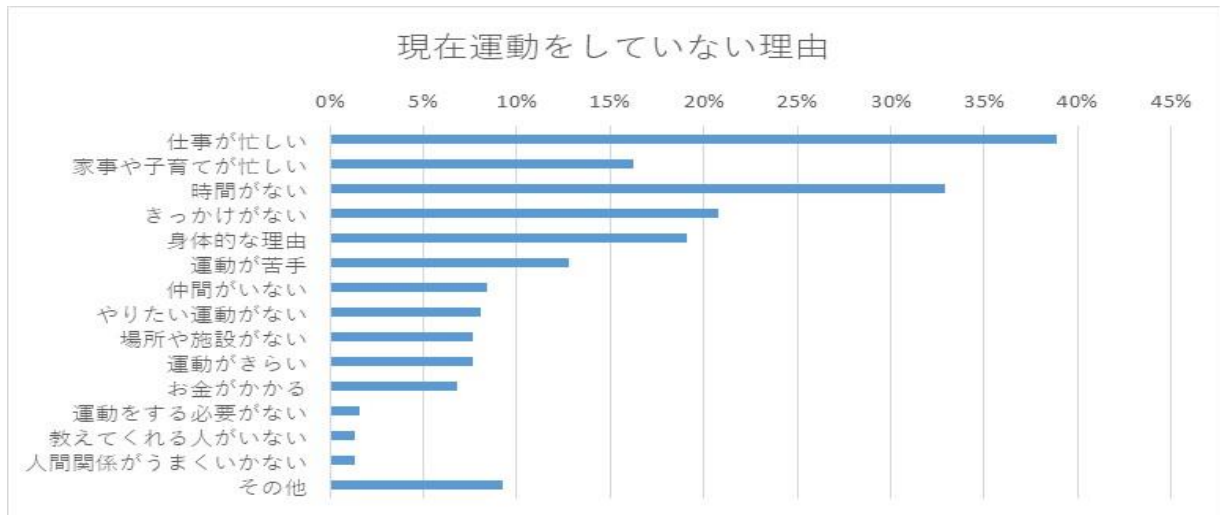
全体では、「健康・体づくり」と回答した人が5割を超えており最も高い割合である。また、男性では44.2%が「仲間と一緒に楽しめる」、女性では46.1%が「運動不足解消」と次いで高い割合となっている。



○設問 18 運動・スポーツをしていない、または以前はしていたがやめた理由は何ですか。

(3つ以内で選択) 【現在運動をしていない人が回答】

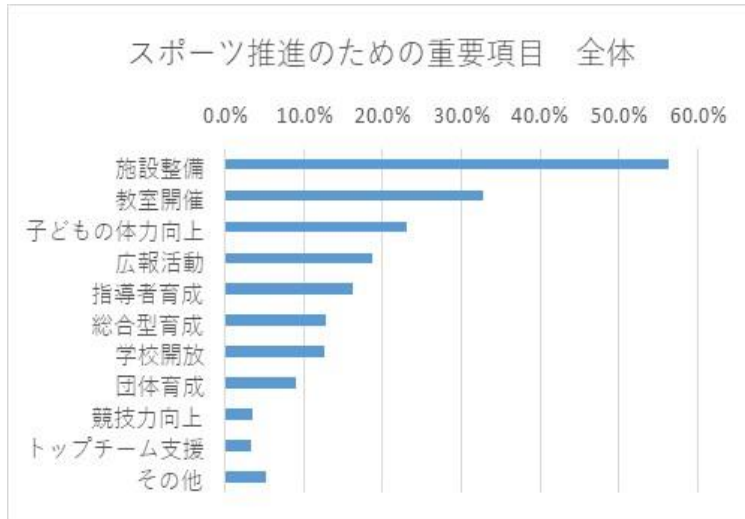
男女とも前回と同様の傾向を示しており、1位が「仕事が忙しい」、2位が「時間がない」となっている。男性は、「きっかけがない」ことが3位となっていることに対して、女性は、3位が「家事や子育てが忙しい」となっており、物理的な条件が運動していない理由の上位となっている。また、きっかけ作りも運動実施の重要な要因になる。



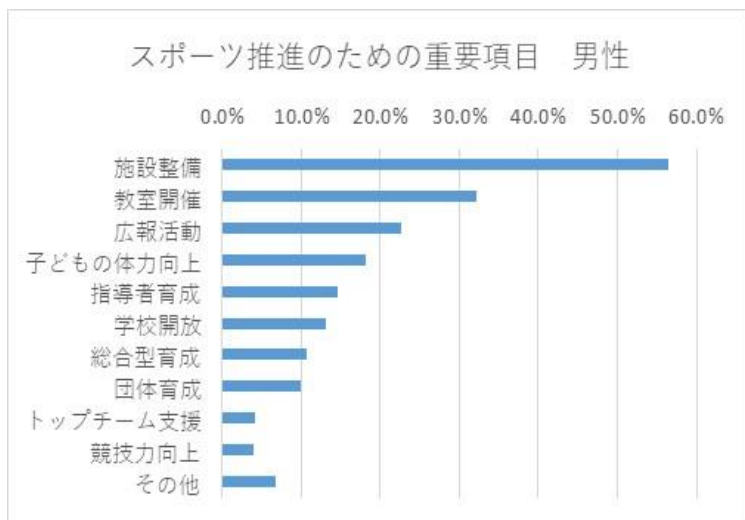
スポーツに振興に関する意識

○設問 24 赤磐市のスポーツ振興にとって重要なことは何だと思えますか。(3つ以内選択)

・ハード面では、「施設整備」が56.3%と非常に高い。前回同様最も割合が高い項目だが、前回の34.7%を大きく上回った。ソフト面である「教室などの開催」が32.8%で、これも前回の23.1%を上回っている。また「子どもの体力向上」の必要性を感じている割合も高い。



	全体(n=871)	割合
施設整備	490	56.3%
教室開催	286	32.8%
子どもの体力向上	201	23.1%
広報活動	163	18.7%
指導者育成	141	16.2%
総合型育成	112	12.9%
学校開放	110	12.6%
団体育成	79	9.1%
競技力向上	30	3.4%
トップチーム支援	29	3.3%
その他	46	5.3%



	男性(n=401)	割合
施設整備	226	56.4%
教室開催	129	32.2%
子どもの体力向上	73	18.2%
広報活動	91	22.7%
指導者育成	59	14.7%
学校開放	53	13.2%
総合型育成	43	10.7%
団体育成	40	10.0%
トップチーム支援	17	4.2%
競技力向上	16	4.0%
その他	27	6.7%

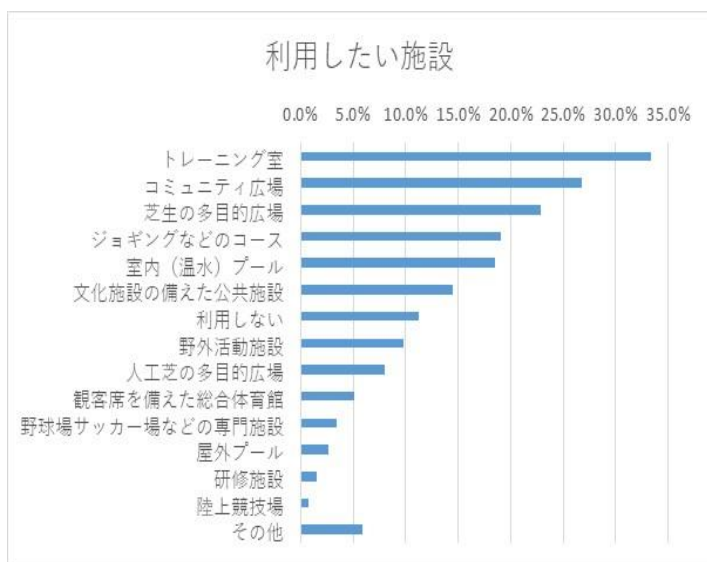


	女性(n=470)	割合
施設整備	264	56.2%
教室開催	157	33.4%
子どもの体力向上	128	27.2%
指導者育成	82	17.4%
広報活動	72	15.3%
総合型育成	69	14.7%
学校開放	57	12.1%
団体育成	39	8.3%
競技力向上	14	3.0%
トップチーム支援	12	2.6%
その他	19	4.0%

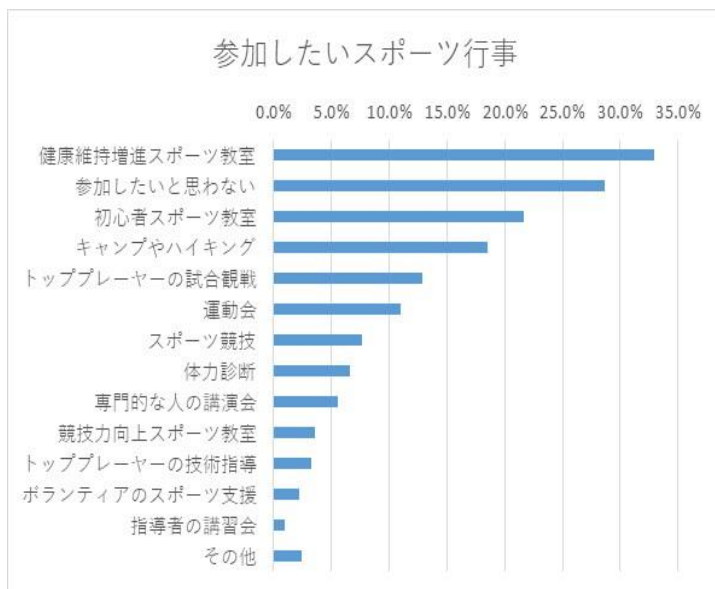
○設問 26 どのようなスポーツ施設を利用したいですか。(3つ以内で選択)

○設問 30 どのようなスポーツ行事に参加したいですか。(3つ以内で選択)

・利用したい施設「トレーニング室」が27.1%(前回32.3%)、次いで「コミュニティ広場」21.7%(前回29.3%)、上位2施設は前回と同様だが、前は「温水プール」が続いたが、今回は「芝生の多目的広場」で、自然の中での活動を望んでいると思われる傾向がある。
 ・参加したい行事は前回同様「健康の維持増進のためのスポーツ教室」が最も割合が高いが、「参加したいと思わない」が高くなっている。イベント参加ではなく、多様な種目選択の傾向が強くなっているとみられる。



	全体(n=896)	割合
トレーニング室	299	33.4%
コミュニティ広場	240	26.8%
芝生の多目的広場	205	22.9%
ジョギングなどのコース	171	19.1%
室内(温水)プール	166	18.5%
文化施設の備えた公共施設	130	14.5%
利用しない	101	11.3%
野外活動施設	88	9.8%
人工芝の多目的広場	72	8.0%
観客席を備えた総合体育館	46	5.1%
野球場サッカー場などの専門施設	31	3.5%
屋外プール	24	2.7%
研修施設	14	1.6%
陸上競技場	7	0.8%
その他	53	5.9%



	全体(n=891)	割合
健康維持増進スポーツ教室	293	32.9%
参加したいと思わない	255	28.6%
初心者スポーツ教室	193	21.7%
キャンプやハイキング	165	18.5%
トッププレイヤーの試合観戦	115	12.9%
運動会	98	11.0%
スポーツ競技	68	7.6%
体力診断	59	6.6%
専門的な人の講演会	50	5.6%
競技力向上スポーツ教室	32	3.6%
トッププレイヤーの技術指導	29	3.3%
ボランティアのスポーツ支援	20	2.2%
指導者の講習会	9	1.0%
その他	22	2.5%



赤磐市熊山運動公園



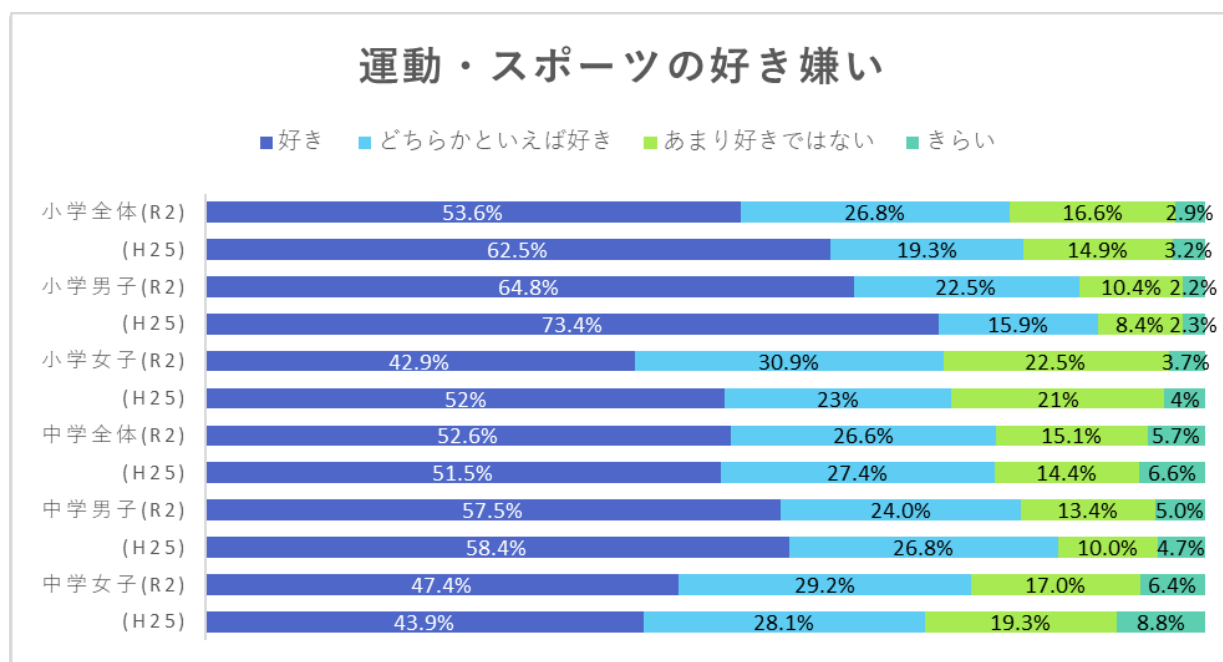
シーガルズ Vリーグ

③小学生（5年）・中学生（2年）の意識調査結果

運動・スポーツに関する意識

○小中：設問1 運動やスポーツをすることが好きですか。

・運動やスポーツが「好き」または「どちらかといえば好き」と回答している児童生徒の割合が高いものの、中学女子以外は、若干だが前回の数値よりも少なくなっている。
 ・女子よりも男子の方が「好き」と回答する割合がやや高く、また中学生よりも小学生の方が「好き」と回答する割合が高いという特徴は前回調査と同様の傾向である。

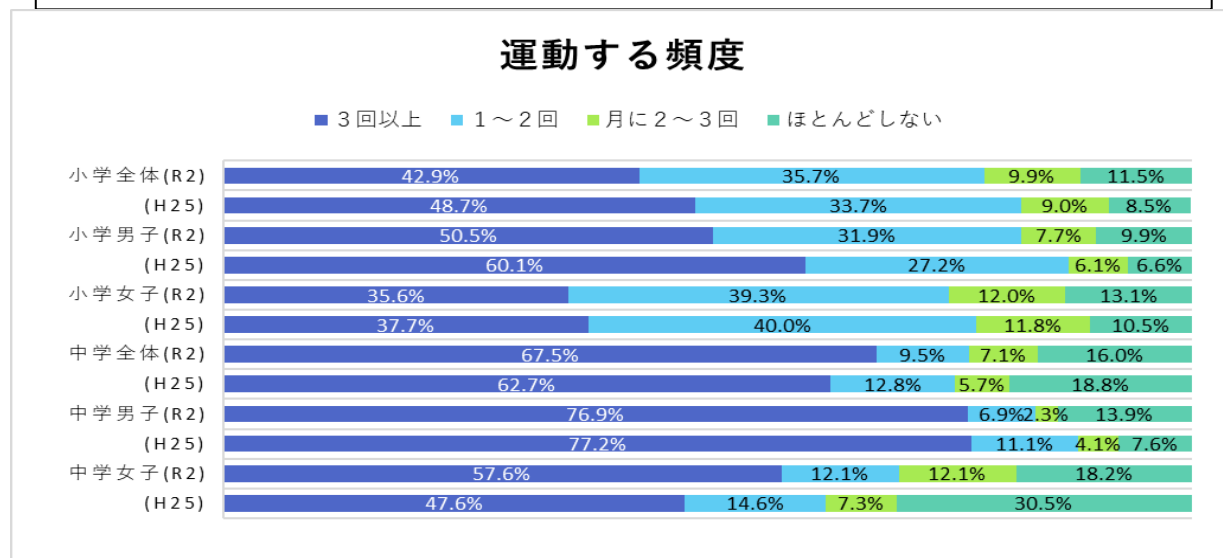


※ 各項目上段が今回調査結果、下段が前回調査結果

運動・スポーツの実施状況

○小：設問3 中：設問4 運動やスポーツをどのくらいしていますか。（学校の授業は除く）

小学生男子で60.1%、中学生男子で77.2%、小学生女子で37.7%、中学生女子で47.6%が「週3回以上」と回答しており、中学生男子が特に高い割合を示している。

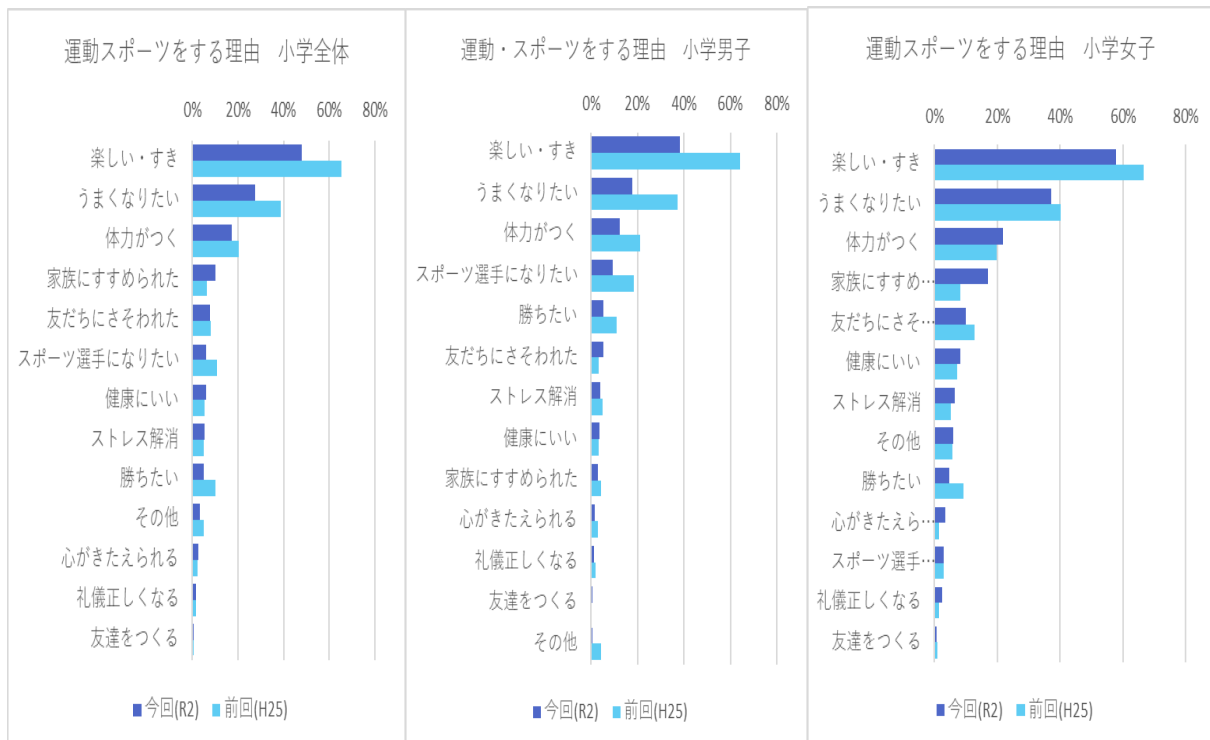


運動・スポーツに対する価値観

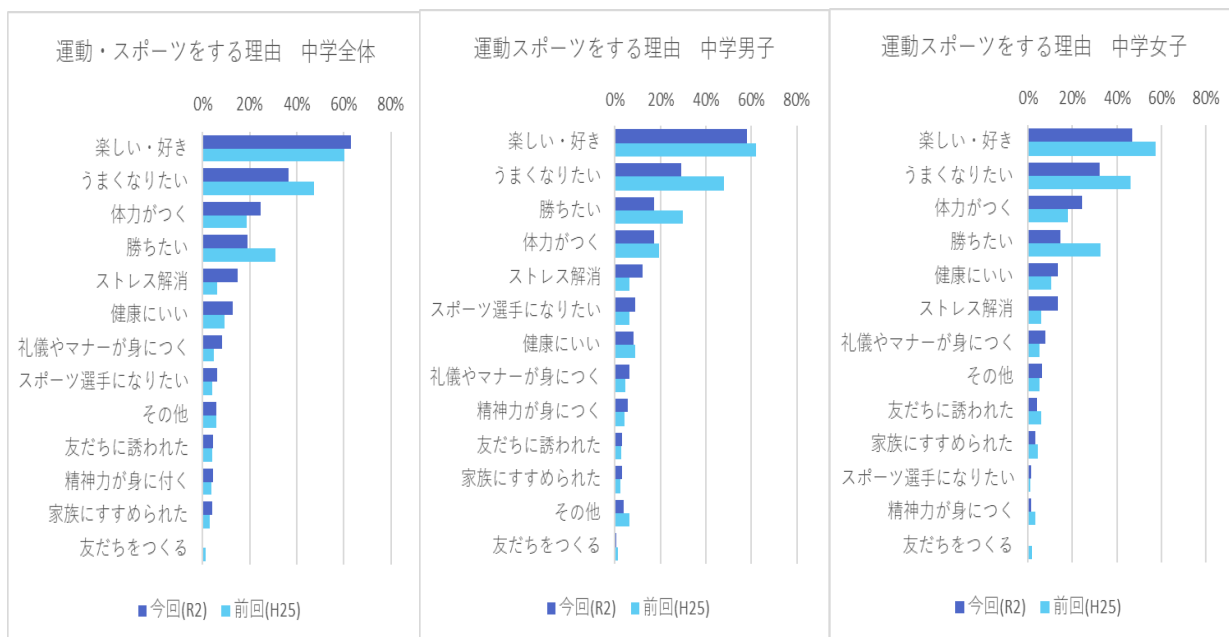
○小：設問8 中：設問9 運動やスポーツをしている理由は何ですか（2つ以内で選択）

【現在運動をしている人が回答】

小学生では、「楽しい・好き」「うまくなりたい」等の意欲に関する項目は前回よりも低くなっている。一方で「家族に進められて」の項目が前回よりも増加している。主体的な選択ができにくい傾向が見られる。中学生では、「楽しい・好き」の項目が強い傾向は前回と同様であるが、「体力がつく」「ストレス解消」の項目が増加しており、合理的に考えての目的意識が増加している傾向が見られる。



運動・スポーツをする理由 回答項目	小学全体		小学男子		小学女子	
	今回(R2)	前回(H25)	今回(R2)	前回(H25)	今回(R2)	前回(H25)
楽しい・好き	48.1%	65.4%	38.3%	64.3%	57.6%	66.5%
うまくなりたい	27.6%	38.6%	18.0%	37.2%	37.1%	40.1%
体力がつく	17.2%	20.5%	12.6%	21.1%	21.8%	19.8%
家族にすすめられた	10.1%	6.3%	9.6%	18.6%	17.1%	8.1%
友だちにさそわれた	7.7%	8.1%	5.4%	11.1%	10.0%	12.7%
スポーツ選手になりたい	6.2%	10.9%	5.4%	3.5%	8.2%	7.1%
健康にいい	5.9%	5.3%	4.2%	5.0%	6.5%	5.1%
ストレス解消	5.3%	5.1%	3.6%	3.5%	5.9%	5.6%
勝ちたい	5.0%	10.1%	3.0%	4.5%	4.7%	9.1%
その他	3.3%	5.1%	1.8%	3.0%	3.5%	1.5%
心がきたえられる	2.7%	2.3%	1.2%	2.0%	2.9%	3.0%
礼儀正しくなる	1.8%	1.8%	0.6%	0.5%	2.4%	1.5%
友達をつくる	0.6%	0.8%	0.6%	4.5%	0.6%	1.0%



運動・スポーツをする理由	中学全体		中学男子		中学女子	
	今回(R2)	前回(H25)	今回(R2)	前回(H25)	今回(R2)	前回(H25)
楽しい・好き	63.1%	60.2%	58.2%	62.1%	46.9%	57.3%
うまくなりしたい	36.5%	47.3%	29.1%	48.0%	32.2%	46.2%
体力がつく	24.6%	18.7%	17.1%	29.9%	24.5%	17.9%
勝ちたい	19.0%	31.0%	17.1%	19.2%	14.7%	32.5%
ストレス解消	15.1%	6.1%	12.0%	6.2%	13.3%	10.3%
健康にいい	12.7%	9.5%	8.9%	6.2%	13.3%	6.0%
礼儀やマナーが身につく	8.3%	4.8%	8.2%	9.0%	7.7%	5.1%
スポーツ選手になりたい	6.3%	4.1%	6.3%	4.5%	6.3%	5.1%
その他	6.0%	5.8%	5.7%	4.0%	4.2%	6.0%
友だちに誘われた	4.4%	4.1%	3.2%	2.8%	3.5%	4.3%
精神力が身に付く	4.4%	3.7%	3.2%	2.3%	1.4%	0.9%
家族にすすめられた	4.0%	3.1%	3.8%	6.2%	1.4%	3.4%
友だちをつくる	0.4%	1.4%	0.6%	1.1%	0.0%	1.7%

○小：設問 3-A 中：設問 5 運動やスポーツをしない理由は何ですか（2つ以内の選択）

【「現在ほとんど運動しない」人が回答】

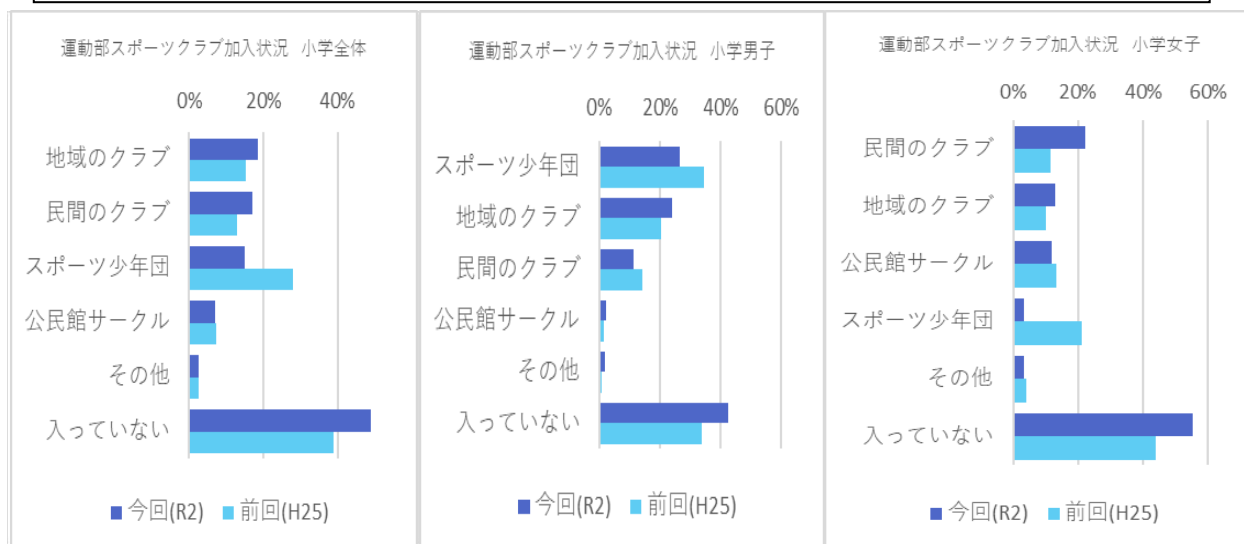
運動をしていない人のうち、その理由として「苦手だから」という回答が多い傾向は、前回調査と同様である。しかし、前回の上位項目に上がっていない、「他にやりたいことがある」割合が増えている。文化スポーツの多種多様化の傾向がうかがえる。

今回(R2)	小学			中学			
上位	男子	女子	全体	男子	女子	全体	
1	他にやりたいことがあるから	8 苦手だから	14 苦手だから	21 苦手だから	7 きっかけがないから	10 きっかけがないから	17
2	苦手だから	7 きらいだから	8 他にやりたいことがあるから	14 きっかけがないから	7 他にやりたいことがあるから	9 苦手だから	15
3	勉強や習い事で忙しいから	5 他にやりたいことがあるから	6 きらいだから	12 他にやりたいことがあるから	6 苦手だから	8 他にやりたいことがあるから	15
前回(H25)	小学			中学			
上位	男子	女子	全体	男子	女子	全体	
1	苦手だから	2 苦手だから	10 苦手だから	12 きらいだから	6 苦手だから	21 苦手だから	26
2	勉強や習い事で忙しいから	2 勉強や習い事で忙しいから	6 勉強や習い事で忙しいから	8 苦手だから	5 きっかけがないから	17 きらいだから	22
3	お金がかかるから	2 きらいだから	5 きらいだから	6 勉強や習い事で忙しいから	2 きらいだから	16 きっかけがないから	18

運動部やスポーツクラブの加入状況

○小・中：設問 10 運動やスポーツのクラブやチームなどに入っていますか。（複数回答可）

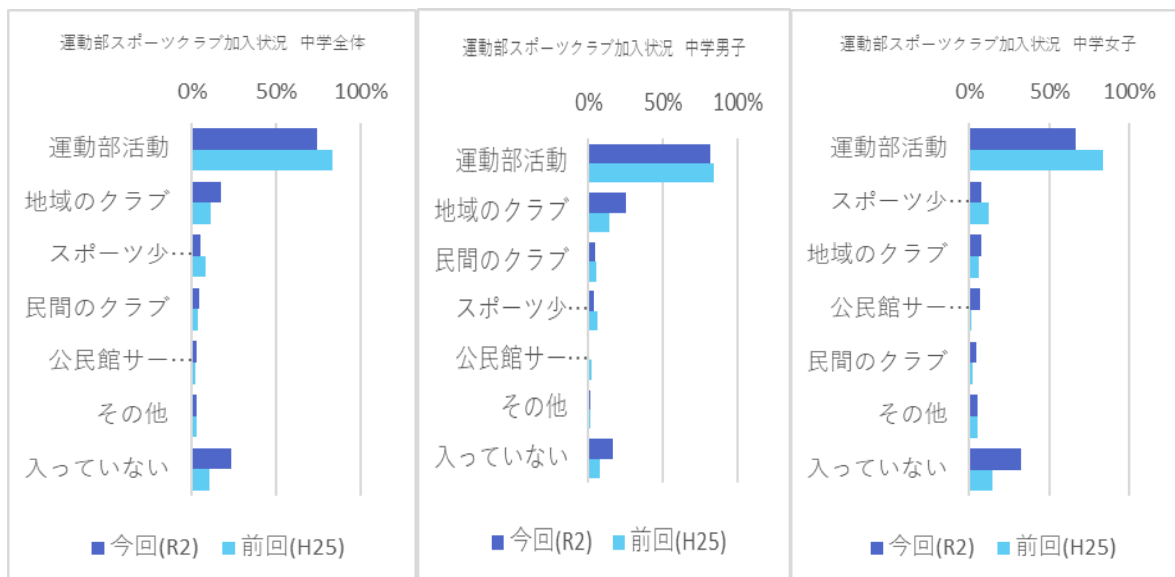
小学生では、前回調査では、スポーツ少年団所属が最も多く 27.9%だったが、今回は 14.9%まで激減している。一方で、地域クラブ、民間クラブへの加入を合わせると 35%余りで、増加傾向が見られる。中学生は、圧倒的に部活動が多き傾向は前回と同様であるものの、運動部活動加入はやや減少傾向が見られ、逆に入っていない割合が高くなっている。運動離れの傾向が見て取れる。



回答項目	今回(R2)	前回(H25)
地域のクラブ	18.5%	15.2%
民間のクラブ	17.0%	12.9%
スポーツ少年団	14.9%	27.9%
公民館サークル	7.1%	7.4%
その他	2.7%	2.5%
入っていない	49.1%	39.1%
合計	109.2%	105.0%

回答項目	今回(R2)	前回(H25)
スポーツ少年団	26.5%	34.5%
地域のクラブ	24.1%	20.3%
民間のクラブ	11.4%	14.2%
公民館サークル	2.4%	1.5%
その他	1.8%	1.0%
入っていない	42.8%	34.0%
合計	109.0%	105.5%

回答項目	今回(R2)	前回(H25)
民間のクラブ	22.4%	11.7%
地域のクラブ	12.9%	10.2%
公民館サークル	11.8%	13.2%
スポーツ少年団	3.5%	21.3%
その他	3.5%	4.1%
入っていない	55.3%	44.2%
合計	109.4%	104.7%



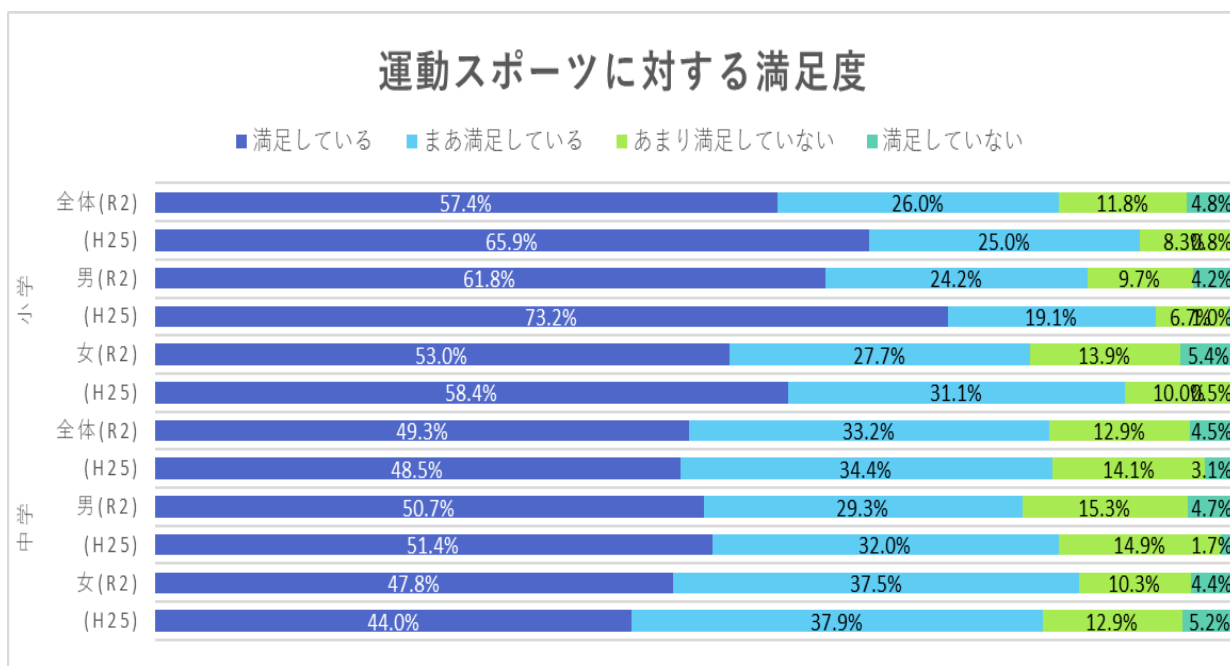
運動部スポーツクラブ加入状況 中学全体			運動部スポーツクラブ加入状況 中学男子			運動部スポーツクラブ加入状況 中学女子		
回答項目	今回(R2)	前回(H25)	回答項目	今回(R2)	前回(H25)	回答項目	今回(R2)	前回(H25)
運動部活動	74.8%	83.9%	運動部活動	81.8%	84.0%	運動部活動	66.4%	83.7%
地域のクラブ	17.4%	11.2%	地域のクラブ	25.7%	14.2%	スポーツ少年団	7.4%	12.2%
スポーツ少年団	5.6%	8.6%	民間のクラブ	4.7%	5.3%	地域のクラブ	7.4%	6.1%
民間のクラブ	4.4%	4.1%	スポーツ少年団	4.1%	6.5%	公民館サークル	6.6%	1.0%
公民館サークル	3.0%	1.9%	公民館サークル	0.0%	2.4%	民間のクラブ	4.1%	2.0%
その他	3.0%	3.0%	その他	1.4%	1.8%	その他	4.9%	5.1%
入っていない	23.7%	10.5%	入っていない	16.9%	8.3%	入っていない	32.0%	14.3%
合計	108.1%	123.2%	合計	117.6%	122.5%	合計	128.7%	124.4%

運動・スポーツの満足感

○小：設問9 中：設問11 自分がしている運動・スポーツに満足していますか。

【現在運動をしている人が回答】

自分がしている運動スポーツに満足している人は、「満足している」と「まあ満足している」をあわせて、小学生 83.4%(前回 90.9%)、中学生 82.5%(前回 82.9%)で高い水準であった。

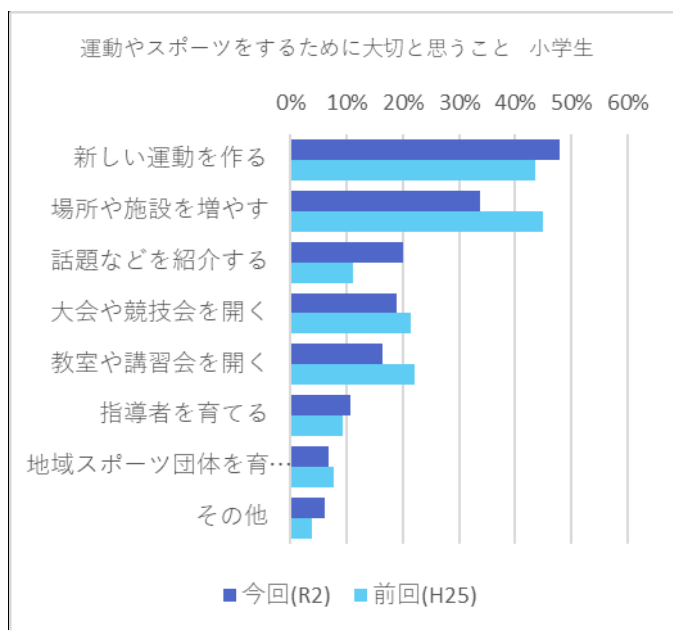


選択項目	小学生			中学生		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体
満足している	61.8%	53.0%	57.4%	50.7%	47.8%	49.3%
まあ満足している	24.2%	27.7%	26.0%	29.3%	37.5%	33.2%
あまり満足していない	9.7%	13.9%	11.8%	15.3%	10.3%	12.9%
満足していない	4.2%	5.4%	4.8%	4.7%	4.4%	4.5%

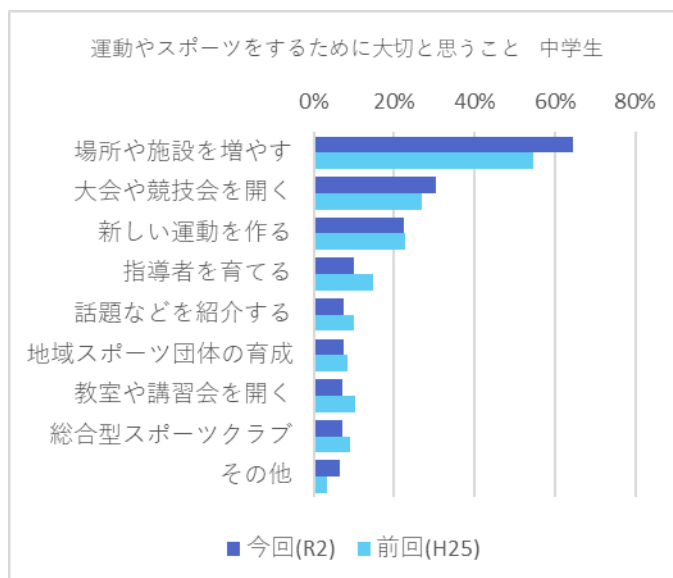
スポーツ振興に関する意識

○小：設問 14 中：設問 16 運動やスポーツを楽しむために大切なことは何だと思いますか。
(2つ以内で選択)

「施設の充実」が小学生 44.9%、中学生 54.7%で最も高い割合で、2番目は中学生 26.9%で「大会や競技会の開催」、小学生 43.5%で「だれでもできる新しいスポーツを作る」であった。



小学生	回答項目	今回(R2)	前回(H25)
	新しい運動を作る	47.9%	43.5%
	場所や施設を増やす	33.7%	44.9%
	話題などを紹介する	20.0%	11.1%
	大会や競技会を開く	18.9%	21.4%
	教室や講習会を開く	16.4%	22.1%
	指導者を育てる	10.7%	9.4%
	地域スポーツ団体を育てる	6.8%	7.8%
	その他	6.0%	3.7%



中学生	回答項目	今回(R2)	前回(H25)
	場所や施設を増やす	64.4%	54.7%
	大会や競技会を開く	30.3%	26.9%
	新しい運動を作る	22.4%	22.7%
	指導者を育てる	9.9%	14.7%
	話題などを紹介する	7.6%	9.9%
	地域スポーツ団体の育成	7.6%	8.5%
	教室や講習会を開く	7.3%	10.2%
	総合型スポーツクラブ	7.3%	9.1%
	その他	6.4%	3.4%



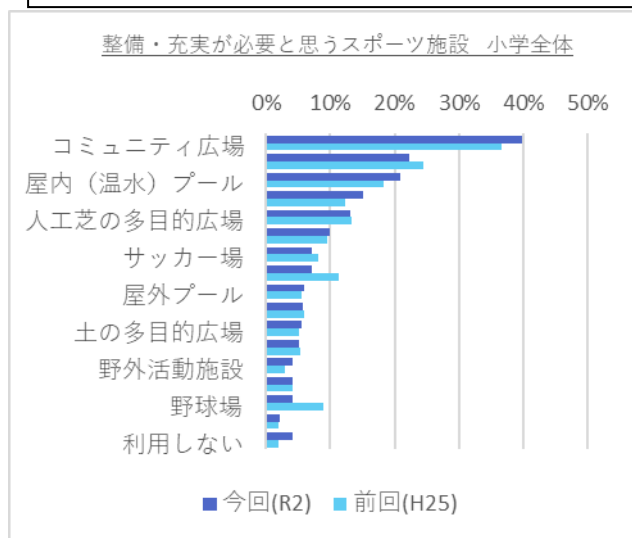
チャレンジデーに活動する園児たち



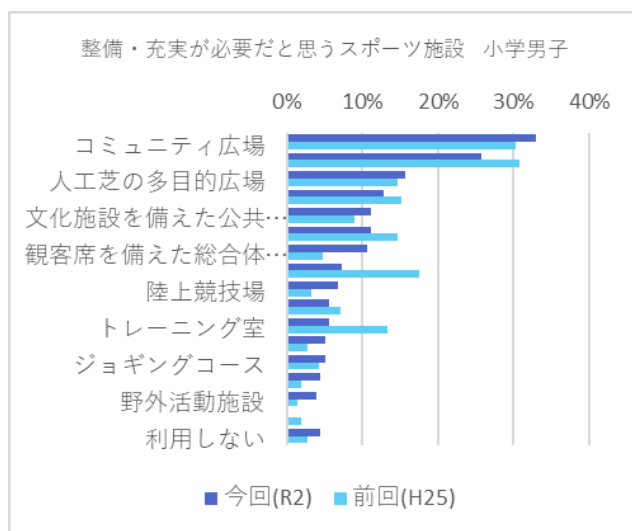
らんラン RUN 赤磐ミニマラソン緊張のスタート

○小:設問 15 中:設問 17 どのようなスポーツ施設を整備・充実すればよいと思いますか。
(2つ以内で選択)

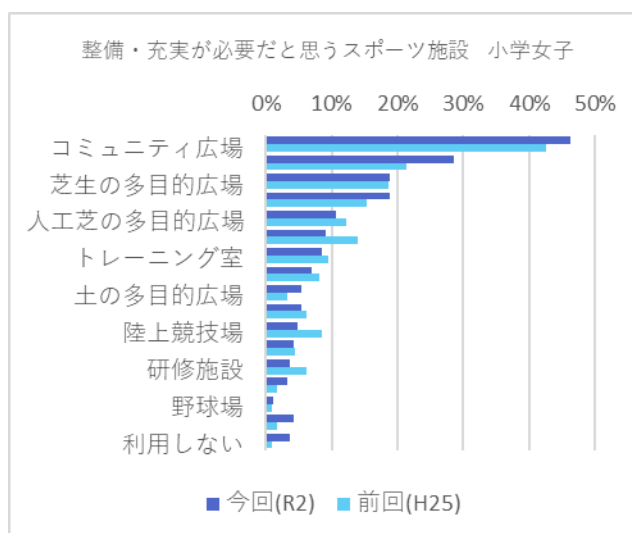
整備・充実すべき施設としては中学生 23.0%が「芝生の多目的広場」、小学生 36.6%が「コミュニティ広場」と回答し最も高い割合を示した。特徴的なものとして中学生男子 14.8%と小学生男子 17.5%が「野球場」と回答し高い割合を示している。



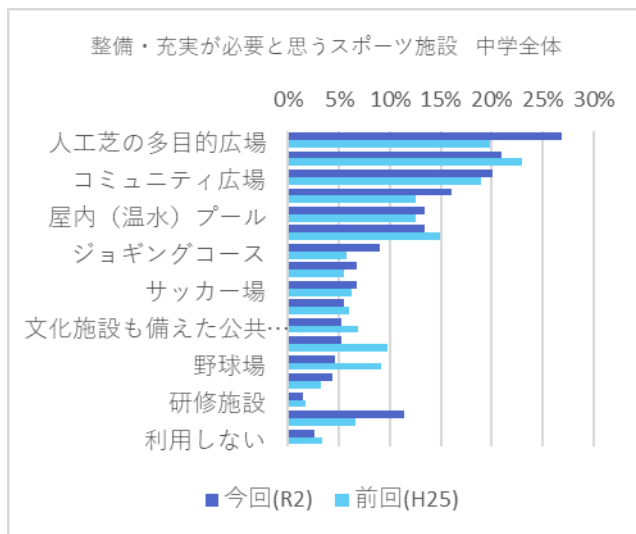
小学生 全体	今回(R2)	前回(H25)
コミュニティ広場	39.7%	36.6%
芝生の多目的広場	22.2%	24.5%
屋内(温水)プール	20.8%	18.3%
文化施設を備えた公共施設	15.1%	12.3%
人工芝の多目的広場	13.2%	13.4%
観客席を備えた総合体育館	9.9%	9.5%
サッカー場	7.1%	8.1%
トレーニング室	7.1%	11.3%
屋外プール	6.0%	5.6%
陸上競技場	5.8%	6.0%
土の多目的広場	5.5%	5.1%
ジョギングコース	5.2%	5.3%
野外活動施設	4.1%	3.0%
研修施設	4.1%	4.2%
野球場	4.1%	9.0%
その他	2.2%	1.9%
利用しない	4.1%	1.9%



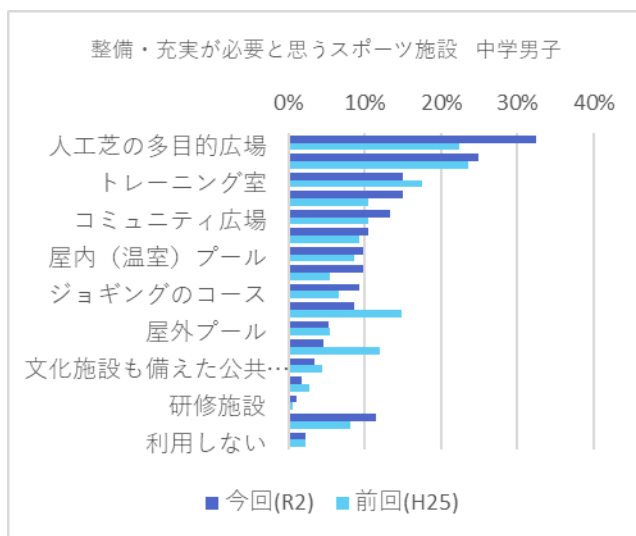
小学生 男子	今回(R2)	前回(H25)
コミュニティ広場	33.0%	30.3%
芝生の多目的広場	25.7%	30.8%
人工芝の多目的広場	15.6%	14.7%
屋内(温水)プール	12.8%	15.2%
文化施設を備えた公共施設	11.2%	9.0%
サッカー場	11.2%	14.7%
観客席を備えた総合体育館	10.6%	4.7%
野球場	7.3%	17.5%
陸上競技場	6.7%	3.3%
土の多目的広場	5.6%	7.1%
トレーニング室	5.6%	13.3%
屋外プール	5.0%	2.8%
ジョギングコース	5.0%	4.3%
研修施設	4.5%	1.9%
野外活動施設	3.9%	1.4%
その他	0.0%	1.9%
利用しない	4.5%	2.8%



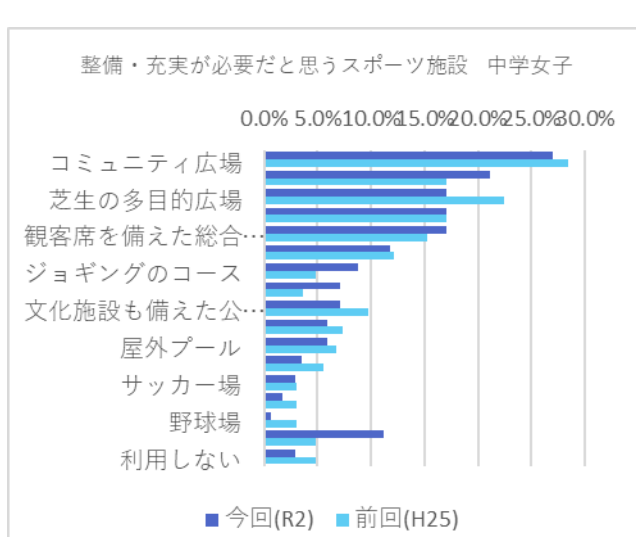
小学生 女子	今回(R2)	前回(H25)
コミュニティ広場	46.2%	42.5%
屋内(温水)プール	28.5%	21.3%
芝生の多目的広場	18.8%	18.6%
文化施設を備えた公共施設	18.8%	15.4%
人工芝の多目的広場	10.8%	12.2%
観客席を備えた総合体育館	9.1%	14.0%
トレーニング室	8.6%	9.5%
屋外プール	7.0%	8.1%
土の多目的広場	5.4%	3.2%
ジョギングコース	5.4%	6.3%
陸上競技場	4.8%	8.6%
野外活動施設	4.3%	4.5%
研修施設	3.8%	6.3%
サッカー場	3.2%	1.8%
野球場	1.1%	0.9%
その他	4.3%	1.8%
利用しない	3.8%	0.9%



中学生 全体	今回(R2)	前回(H25)
人工芝の多目的広場	26.8%	19.8%
芝生の多目的広場	21.0%	23.0%
コミュニティ広場	20.1%	19.0%
観客席を備えた総合体育館	16.0%	12.6%
屋内（温水）プール	13.4%	12.6%
トレーニング室	13.4%	14.9%
ジョギングコース	9.0%	5.7%
陸上競技場	6.7%	5.5%
サッカー場	6.7%	6.3%
屋外プール	5.5%	6.0%
文化施設も備えた公共施設	5.2%	6.9%
土の多目的広場	5.2%	9.8%
野球場	4.7%	9.2%
野外活動施設	4.4%	3.2%
研修施設	1.5%	1.7%
その他	11.4%	6.6%
利用しない	2.6%	3.4%



中学生 男子	今回(R2)	前回(H25)
人工芝の多目的広場	32.4%	22.4%
芝生の多目的広場	24.9%	23.5%
トレーニング室	15.0%	17.5%
観客席を備えた総合体育館	15.0%	10.4%
コミュニティ広場	13.3%	10.4%
サッカー場	10.4%	9.3%
屋内（温室）プール	9.8%	8.7%
陸上競技場	9.8%	5.5%
ジョギングのコース	9.2%	6.6%
野球場	8.7%	14.8%
屋外プール	5.2%	5.5%
土の多目的広場	4.6%	12.0%
文化施設も備えた公共施設	3.5%	4.4%
野外活動施設	1.7%	2.7%
研修施設	1.2%	0.5%
その他	11.6%	8.2%
利用しない	2.3%	2.2%



中学生 女子	今回(R2)	前回(H25)
コミュニティ広場	27.1%	28.50%
人工芝の多目的広場	21.2%	17.00%
芝生の多目的広場	17.1%	22.40%
屋内（温室）プール	17.1%	17.00%
観客席を備えた総合体育館	17.1%	15.20%
トレーニング室	11.8%	12.10%
ジョギングのコース	8.8%	4.80%
野外活動施設	7.1%	3.60%
文化施設も備えた公共施設	7.1%	9.70%
土の多目的広場	5.9%	7.30%
屋外プール	5.9%	6.70%
陸上競技場	3.5%	5.50%
サッカー場	2.9%	3.00%
研修施設	1.8%	3.00%
野球場	0.6%	3.00%
その他	11.2%	4.80%
利用しない	2.9%	4.80%



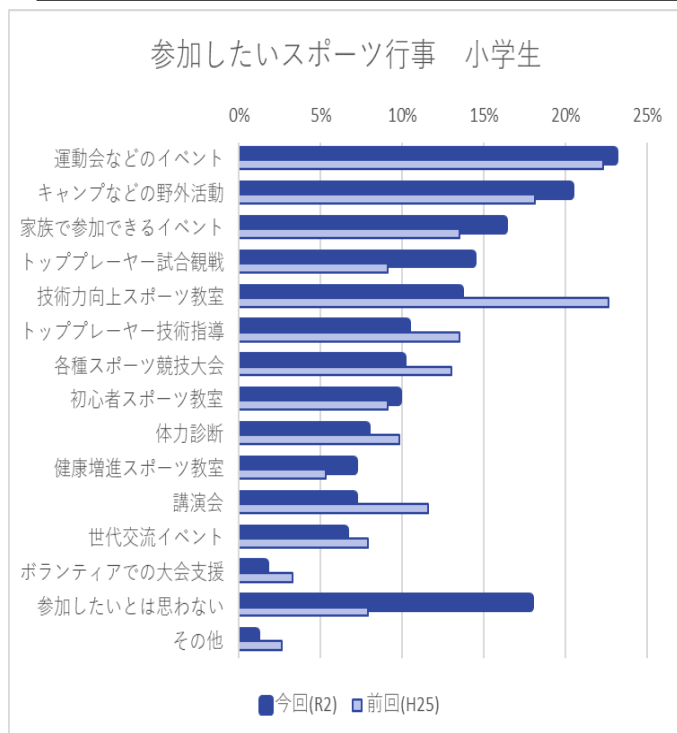
スポーツ少年団活動 体力テストに取り組む団員たち



晴れの国おかやま駅伝で力走する選手と沿道の応援

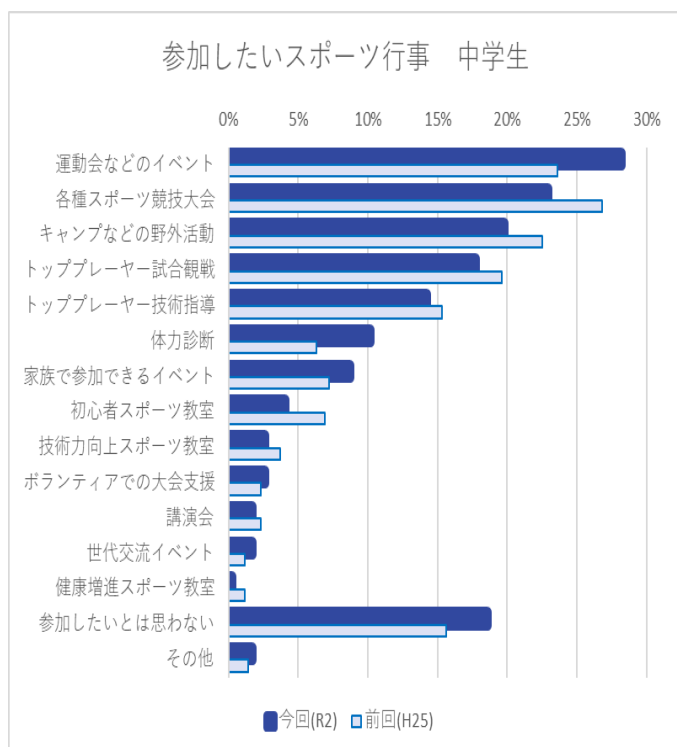
○小：設問 16 中：設問 18 どのようなスポーツ行事に参加したいですか。（2つ以内で選択）

- ・小学生では、「キャンプ」や「家族で参加できるイベント」等ふれあいを求めると同時に、トッププレイヤーの試合観戦など見るスポーツへの関心が前回よりも高まっている一方で、競技力向上の教室やトッププレイヤーの教室等、競技力向上意欲は前回よりも低下傾向が見られる。
- ・中学生は、運動会などみんなで楽しめるイベントを希望している割合が前回よりも増加しているが、全体的にスポーツイベント自体参加希望は減少傾向にある。
- ・参加したいと思わない傾向が小中ともに前回よりも大きく増加している。



小学生

選択項目	今回(R2)	前回(H25)
運動会などのイベント	23.0%	22.30%
キャンプなどの野外活動	20.3%	18.10%
家族で参加できるイベント	16.2%	13.50%
トッププレイヤー試合観戦	14.3%	9.10%
技術力向上スポーツ教室	13.5%	22.60%
トッププレイヤー技術指導	10.3%	13.50%
各種スポーツ競技大会	10.0%	13.00%
初心者スポーツ教室	9.7%	9.10%
体力診断	7.8%	9.80%
健康増進スポーツ教室	7.0%	5.30%
講演会	7.0%	11.60%
世代交流イベント	6.5%	7.90%
ボランティアでの大会支援	1.6%	3.30%
参加したいと思わない	17.8%	7.90%
その他	1.1%	2.60%



中学生

選択項目	今回(R2)	前回(H25)
運動会などのイベント	28.2%	23.60%
各種スポーツ競技大会	23.0%	26.80%
キャンプなどの野外活動	19.8%	22.50%
トッププレイヤー試合観戦	17.7%	19.60%
トッププレイヤー技術指導	14.2%	15.30%
体力診断	10.2%	6.30%
家族で参加できるイベント	8.7%	7.20%
初心者スポーツ教室	4.1%	6.90%
技術力向上スポーツ教室	2.6%	3.70%
ボランティアでの大会支援	2.6%	2.30%
講演会	1.7%	2.30%
世代交流イベント	1.7%	1.20%
健康増進スポーツ教室	0.3%	1.20%
参加したいと思わない	18.6%	15.60%
その他	1.7%	1.40%

3 計画の基本理念

『生涯にわたるスポーツライフの実現』

スポーツは、「こころ」と「からだ」を健全にはぐくむとともに、人と人との交流を深め、明るく活力に満ちた、生きがいのある生活を送るうえで重要な役割を果たしています。そして、人々の価値観やライフスタイルが多様化している今日においては、人生をより豊かで充実したものにするために欠くことができないものとして、その重要性がますます高まっています。

市民の多様なスポーツニーズへの対応と健康増進を図るため、関係団体と連携した取り組みを推進し、その体制を充実・強化するとともに、スポーツ施設の適切な整備・活用を行い、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指します。

また、今後はスポーツボランティアの重要性やスポーツイベントに参加する楽しさを知ってもらえる呼びかけを広く展開していくことが重要です。オリンピック開催に伴うニュージーランド代表女子とカナダ代表男子ホッケーチームの応援や観戦、ボランティア、そしてオリンピック・パラリンピックを含めたトップレベルの競技スポーツの観戦機会増加等により、「する」「観る」「支える」という様々な形でスポーツへの関わり方が広がり、定着しつつあります。さらに、働き方改革やITの活用等社会情勢が著しく変化する中で、余暇の楽しむこと、自然と触れ合うこと、なかでも家族や仲間とのふれあいなどのニーズが高まっている今、だれもが気軽に参加・交流のできるスポーツ活動へ関わる機会の提供、地域スポーツクラブの活性化、スポーツ・レクリエーションによる健康づくりと交流活動等を推進します。

(1) スポーツのある豊かな暮らしを支える環境づくり

だれもが気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するため、多様化するニーズに適切に対応し、生涯にわたってスポーツに親しめるよう、スポーツリーダー・スポーツボランティアおよびスポーツボランティアリーダーの養成に取り組み、地域スポーツクラブの活性化、施設の充実、適切な情報提供、トップレベルのスポーツ観戦の機会提供などのスポーツ振興を推進する環境づくりに努めます。

(2) 健全な心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進

市民一人ひとりがライフステージに応じたスポーツに親しめるよう、地域、学校、スポーツ団体および行政が連携して参加機会の拡大を図るとともに、スポーツを通じた健康の増進および低下傾向にある子どもの体力づくりに努めます。

(3) 互いの力を高めあう競技スポーツの推進

市民のスポーツに対する関心や意欲を喚起して競技人口の拡大を図るとともに、関係団体と連携し、優れた競技者の育成およびそれを支える指導体制づくりに努めます。



イオンモール岡山でオリンピック啓発



ファミリースポーツ祭り 空き缶積み



スポーツ少年団交流大会

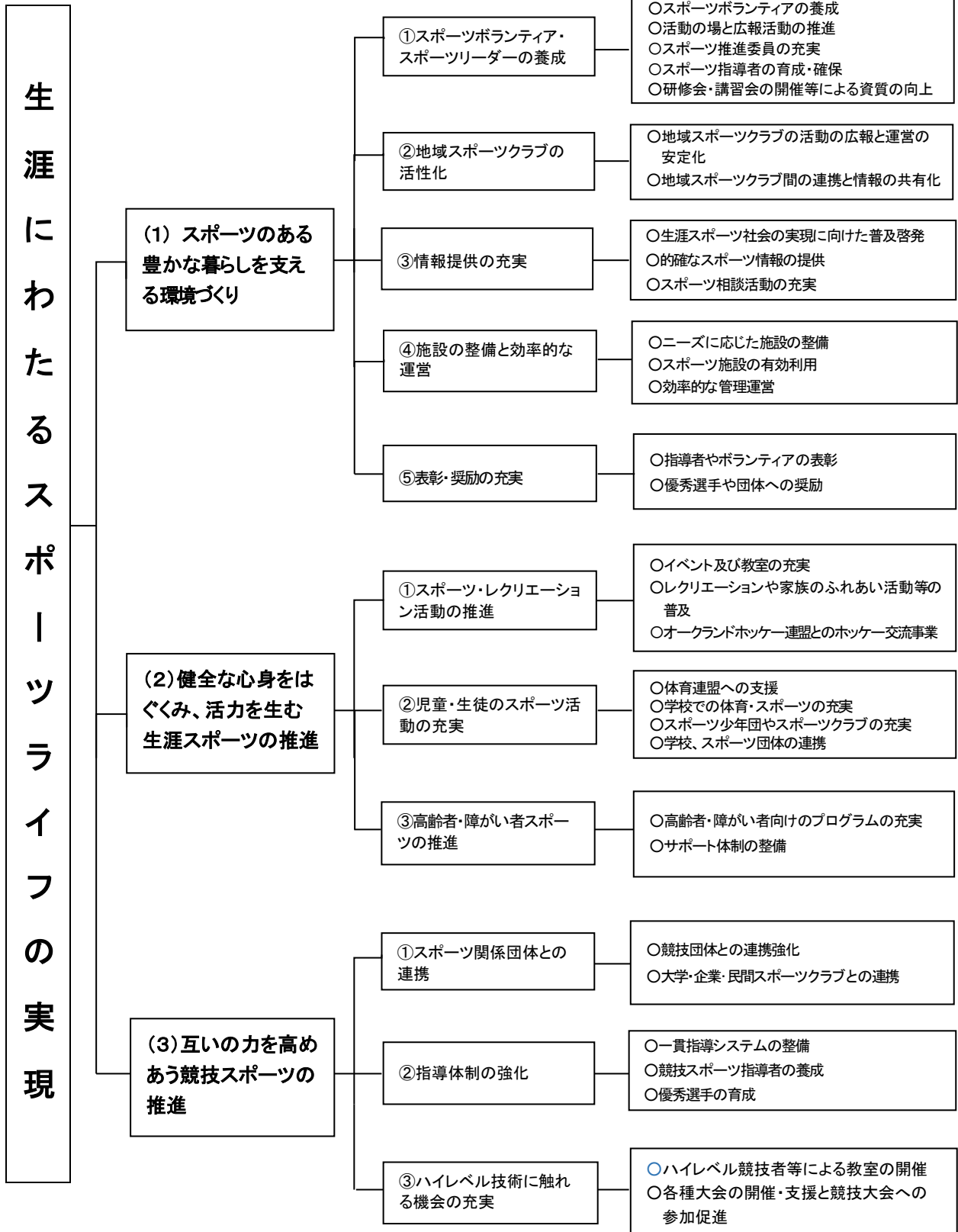
4 計画の体系

【理念】

【基本目標】

【基本施策】

【施策項目】



5 基本施策

(1) スポーツのある豊かな暮らしを支える環境づくり

● わが町スポーツの推進(「ホッケーのまち赤磐」)

「わが町スポーツの推進」とは、平成17年晴れの国おかやま国体を契機として、岡山県内の各地域に、シンボルとなるスポーツ(地域に根差した特徴ある競技種目)の活性化や普及に向けた計画を推進していこうという考え方です。赤磐市は、昭和37年岡山国体当時、瀬戸高等学校へのホッケー部創部に始まり、晴れの国おかやま国体で旧熊山町がホッケー競技の開催地となったこと、そして東京2020オリンピックのニュージーランド代表女子とカナダ代表男子ホッケーチームのキャンプ誘致、日本の最高峰の大会である全日本ホッケー選手権大会の4年連続男女同時開催(平成30年～令和3年:4年連続地方開催は日本ホッケー史上初)などを考えると「ホッケー競技」が、まさに赤磐市の「わが町スポーツ」といえます。また、東京オリンピックに向けた、ニュージーランド代表女子とカナダ代表男子のホッケー競技事前キャンプ地のレガシィとして、オークランドホッケー連盟とカナダホッケー連盟とのホッケー交流が計画されていることから、今後は「ホッケーのまち赤磐」として、赤磐市の特徴を生かしながら、国際交流も含めて推進していくことが重要です。もちろん、岡山シーガルズの練習拠点であることから、バレーボールはもとより、現代のスポーツ種目の多様化から、ニーズに応じた各種スポーツの振興と発展に取り組んでいくことも必要なことと考えます。

全国規模の大会誘致(トップレベルの試合観戦)

赤磐市・赤磐市教育委員会が主催、共催、後援した全国大会(過去5年間)

大会名	開催年	開催場所	種類	来場者数
全日本男女ホッケー選手権大会	H30.12	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	2,000人
全日本男女ホッケー選手権大会	R 1.12	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	3,000人
全日本男女ホッケー選手権大会	R 2.12	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	2,500人
全日本男女ホッケー選手権大会	R 3.11	熊山運動公園多目的広場	市・教 後援	3,100人
Vリーグ プレミアムカップ	R 3. 3	山陽ふれあい公園体育館	市 後援	1,300人

● 東京オリンピック事前キャンプのレガシィ

赤磐市は、2017年に東京2020オリンピックホッケー競技国内キャンプ誘致実行委員会を立ち上げ、以来、ニュージーランドのホストタウンとして内閣府の承認を受け、誘致と交流に取り組んできました。特に、ニュージーランドホッケー連盟、オークランドホッケー連盟やオークランド日本人会等と密接な交流を行い、厚い信頼関係を構築してきました。また、在日ニュージーランド大使も2019年3月に赤磐市を訪れ、熱い思いを赤磐市に寄せてくださいました。さらに、2021年にはカナダのホストタウンとしても内閣府の承認を受け、カナダ代表男子ホッケーチームの事前キャンプを実施しました。カナダチームは、赤磐市でのキャンプを大変喜び、今後の交流を強く希望しています。このようなことから、ホッケーを通じてニュージーランドやカナダとの交流を今後計画していくこととなりました。今後は、この縁を大切にしながら海外とのスポーツ交流を推進していくと同時に、キャンプに向けて改修した熊山運動公園多目的広場の活用も含めて、オリンピックレガシィとして発展的に取り組んでいきます。

① スポーツボランティア・スポーツリーダーの養成

○スポーツボランティアおよびスポーツボランティアリーダーの養成

スポーツイベントや地域で行うスポーツ教室の円滑な運営のためには、運営を支えるスポーツボランティアが必要不可欠です。スポーツボランティアの紹介やスポーツボランティアリーダーの養成に積極的に取り組み、スポーツボランティアを増やすとともに、成人のスポーツ実施者の増加を図ります。

○活動の場と広報活動の推進

市民がスポーツ活動を通じて、地域社会に参加し積極的な役割が得ることのできるよう、スポーツボランティアとして活動する機会の提供に努めます。また、ホームページ等を活用して、各種大会やスポーツイベント等へのボランティア参加を呼びかけます。

○スポーツ推進委員の充実

生涯スポーツ振興のため、地域におけるスポーツの実技指導やニュースポーツの普及活動に取り組んでいるスポーツ推進委員について、研修会や他団体との指導交流などによるスキルアップを図ります。

○スポーツ指導者の育成・確保

競技力の向上を目指すために、スポーツの専門的知識を有する指導者を確保するとともに、これらの人材を活用した講習会の開催などにより、スポーツ団体指導者のスキルアップを図ります。

○研修会・講習会の開催等による資質向上

市内の指導者の資質向上と相互の連携を図り、市民のスポーツの普及・推進とスポーツ競技力の向上を図ることを目的とした体育協会やスポーツ少年団が行う研修会の開催を継続して行います。また、県や県スポーツ協会が開催する「スポーツ指導者セミナー」など各種研修会や講習会の開催情報の提供に努めます。

② 地域スポーツクラブの活性化

○地域スポーツクラブの活動の広報と運営の安定化

地域スポーツクラブは、それぞれの興味・関心にあわせてスポーツを楽しむことができるだけでなく、地域住民の交流の場として、また、青少年の健全育成、心身の健康の保持増進など、活力ある地域社会の形成にも役割を果たします。地域スポーツクラブの活動が広く市民に理解されるよう、広報誌やホームページにより、普及啓発に努めます。

○地域スポーツクラブ間の連携と情報の共有化

県内には40を超える総合型地域スポーツクラブがあります。県スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ岡山協議会と連携して、地域スポーツクラブ間の情報共有や交流を促進し、活性化を図ります。

③ 情報提供の充実

○生涯スポーツ社会の実現に向けた普及啓発

市民一人ひとりが自らの関心や体力に応じて、スポーツを生活文化として日常生活の中で行えるよう、スポーツ実践の意義や効果について、市民意識の啓発に努めます。

○的確なスポーツ情報の提供

「広報あかいわ」をはじめ、市ホームページ、ポスターやチラシ等、多様な媒体を通じた情報提供を行い、「する」「観る」「支える」スポーツへの参加を推進します。

○スポーツ相談活動の充実

市民がより安全かつ効率よくスポーツ活動を実施できるよう、怪我や病気の予防、栄養摂取、体力や種目の特性に応じたトレーニング処方など、健康・体力づくりに関するスポーツ相談活動の充実に努めます。

④ 施設の整備と効率的な運営

○ニーズに応じた施設の整備

現在、山陽ふれあい公園をはじめ、赤坂ファミリー公園、熊山運動公園、吉井B&G海洋センター、赤磐市グラウンド・ゴルフ場等たくさんのスポーツ施設が整備され、多くの市民に利用されています。

今後は、多様化する市民ニーズを的確に把握しながら、「赤磐市総合計画」との整合性を図り、優先順位をつけて、日常的にスポーツに親しみ、気軽に健康づくりを行うことの出来る拠点施設の整備を図ります。また、施設の老朽化に伴い、けがの防止や利用促進の観点から、計画的な修繕、整備、改修を推進していきます。

○スポーツ施設の有効利用

現在、市のホームページに掲載されている施設利用状況を活用し効果的な情報提供ができるよう啓発に努めます。また、申請手続きの簡素化など利用者の利便性を図る取り組みを行います。

学校体育施設は各地域のスポーツ交流施設として大きな役割を果たしており、現在も定期的に利用している団体は多く、その機能を発揮しています。今後も学校と連携しより一層利便性の優れた施設として広く市民が平等に活用できるよう調整に努め計画的に利用していきます。

○効率的な管理運営

効率的かつ効果的なスポーツ施設の管理運営を推進するために、平成25年度より赤磐市グラウンド・ゴルフ場を平成26年度より山陽ふれあい公園、桜が丘運動公園、西山グラウンドを平成28年度より吉井B&G海洋センター、草生多目的広場、草生テニスコート、吉井グラウンドについて指定管理者制度を導入し、管理・運営をおこなっています。管理運営経費の削減を図るとともに、利用者ニーズへの柔軟な対応によってより質の高いサービスの提供に努めます。今後は、利用者の利便性向上等を目的として、さらに他の施設の指定管理者制度も導入を推進していきます。

⑤ 表彰・奨励の充実

○指導者やボランティアの表彰

長年にわたって市のスポーツ推進に尽力した指導者やボランティアを対象として表彰を行い、市民のスポーツ活動を応援します。

○優秀選手や団体への奨励

スポーツ大会や競技会等で活躍した優れたスポーツ選手や団体を、赤磐市スポーツ激励金交付要綱により表彰・奨励し、市のスポーツ水準の向上を図ります。

(2) 健全な心身をはぐくみ、活力を生む生涯スポーツの推進

① スポーツ・レクリエーション活動の推進

○イベント及び教室の充実

市民誰もが気軽に参加できる「スポレクフェステ赤磐」や世代間交流が図れる「市民グラウンド・ゴルフ大会」、市内小学校の交流と体力向上を目指した「小学生ドッジボール大会」、多くの市民のスポーツ参加啓発を目的とした「チャレンジデー」等さまざまな魅力ある大会の開催を推進してきましたが、行事の継続を目的とするのではなく、今後はニーズや社会情勢等多方面から検討して、見直しや方法の改善を図っていきます。

また、普段、運動、スポーツをする機会の少ない地域住民を対象とした「トレーニング教室」、親子の交流や児童・生徒の体力向上、にも繋がる「親子ファミリースポーツ教室」「各種スポーツ教室」など、スポーツに触れる機会の提供を積極的に行います。

○レクリエーションや家族ふれあい活動等の普及

市民の誰もが手軽に楽しめるレクリエーション、家族のふれあいができるキャンプ実践教室、健推進委員を中心として推進していきます。

また、「スポーツに人を合わせる」から「人にスポーツを合わせる」ユニバーサルスポーツの康の維持増進のための健康体操などを生涯スポーツ教室のメニューに取り入れ、スポーツ考え方を取り入れ、だれもが一緒になってスポーツ、レクリエーション活動を楽しむことを主目的とした取り組みの中で、その普及を図ります。

○オークランドホッケー連盟とのホッケー交流事業

オークランドホッケー連盟所属の小学校・中学校・高校のチームが来市して、赤磐市及び周辺の同年代のホッケーチームと親善試合や交流活動を行います。その翌年は、赤磐市のホッケーチームがオークランドを訪問して親善試合や交流活動を行います。ホッケー競技を通じて交流を深めていきます。

○健康づくりのための運動等の推進

運動に関する市民意識調査では、運動をする理由として一般市民の多くの方が「健康づくり」「ストレス解消」をあげていました。健康づくりの観点から見たスポーツの意義など、健康とスポーツの関りを市民に対して広く啓発するとともに、健康教室や相談窓口を通じて健康づくりに対する正しい知識の普及に努めます。

また、日常生活におけるスポーツの習慣化を目指して、それぞれの年齢や体力に応じた運動の普及に努め、スポーツを通じた健康づくりを推進します。

② 児童・生徒のスポーツ活動の充実

○体育連盟への支援

小学校体育連盟及び中学校体育連盟の活動を支援し、児童生徒の健全な心や体力の増進及びスポーツの推進、競技力の向上を図ります。また、学校の働き方改革や児童生徒の減少等により部活動自体の見直しが進められています。今後の学校部活動のあり方と競技力の向上を模索していくために、学校と社会体育団体、競技団体や地域のスポーツクラブ等との協力体制を構築していくシステムを推進していきます。

○学校での体育・スポーツの充実

子どもたちの基礎体力の向上はもとより、一人ひとりが運動や健康に関心を持ち、運動の楽しさや喜びを味わえるよう、自発的・自主的に運動に取り組むことが出来る学校体育やスポーツ活動を推進します。

また、学校教育活動の一環として行われている各種大会は、日ごろの運動部活動の成果発揮の場だけでなく、他校の児童生徒との交流等、大きな教育的効果があることを踏まえ、各種大会が円滑に行われるように支援します。

○スポーツ少年団やスポーツクラブの充実

スポーツによる青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団やジュニアクラブ活動を継続し今後ますます活性化させるためにも、学校から児童・生徒及び保護者に対して、体を動かすことの楽しさを味わうことや体力の向上を図る場として、スポーツ少年団やジュニアクラブ活動を紹介し加入を促進します。

○学校、スポーツ団体の連携

児童・生徒のスポーツ活動の中心的な受け皿である、スポーツ少年団、学校運動部活動、体育協会、地域スポーツクラブ等が互いに交流を図るとともに、保護者や指導者間及び学校との情報交換が頻繁に行われるような体制整備を図ります。

③ 高齢者・障がい者スポーツの推進

○高齢者・障がい者向けのプログラムの充実

高齢者や障がいのある人がスポーツを通じて心身の機能向上を図り、健康と生きがいづくりを促進するため、気軽にスポーツに楽しむことができるプログラムの充実に努め、高齢者・障がい者スポーツの人口拡大に努めます。

また、障がいの有無にかかわらず、だれもが一緒になって楽しめるスポーツ大会等を開催するなど、障がいのある人の積極的な社会参加を促進することにより、交流を深め相互理解を図ります。

○サポート体制の整備

社会福祉協議会をはじめとする保健福祉機関との連携を強化して、サークル等の活動を支援するとともに、障がい者スポーツ指導員等の指導者組織の結成を促し、要請に応じて派遣できる体制を整備します。

(3) 互いの力を高めあう競技スポーツの推進

① スポーツ関係団体との連携

○競技団体との連携強化

体育協会が加盟競技団体の育成・支援のために行っている重点強化事業や各競技団体が実施している事業などを再点検し、スポーツ競技力の向上を目指して、体育協会や加盟競技団体との連携を一層強化します。

○大学・企業・民間スポーツクラブとの連携

地域に開かれた企業の取り組みや民間スポーツクラブとの連携による施設や指導者の有効活用を目指し、競技団体・地域スポーツクラブ等と企業・民間スポーツクラブが連携・協力できる体制づくりを推進します。また、市と協定を結んでいる環太平洋大学と

協力、連携し、学生によるスポーツボランティア活動の支援、指導者の養成、施設の開放など、大学が有する人的、知的、物的な資源を活用し、地域貢献活動が行われるよう連携し協働を図ります。

② 指導体制の強化

○一貫指導システムの整備

学校やスポーツ少年団等を含む各種目競技団体の指導者をはじめとするスポーツ関係者に対して、ジュニア期から、選手の個々の特性や身体の発育に応じた指導ができる一貫指導システムの意義について、普及啓発に努めます。また、ジュニア期の競技者を効果的に育成するためには、ジュニア期に複数の競技種目を体験させることが有意義であること、そして、継続した活動及び指導が可能な場であり競技人口の底辺拡大にもつながることから、総合型地域スポーツクラブにおいて効果的な一貫指導システムの確立が図られるよう支援していきます。

○競技スポーツ指導者の養成

トップレベルを目指すアスリートの育成のためには、競技者一人ひとりの特性を的確に把握し、その能力を最大限に発揮させることができる指導者の育成が必要となります。そのため、関係機関と連携を図り、より高度な専門的知識と指導力を持つ競技スポーツ指導者の養成事業を推進します。

また、高度な能力を要する指導や競技種目の指導者不足については、県、周辺市町や大学等の専門機関と連携し、指導者の確保に努めます。

○優秀選手の育成

学校・地域スポーツクラブや各競技団体の指導者と情報交換を行うことにより、優れた素質を有する競技者を発掘し、トップレベル競技者の育成に努めます。

③ ハイレベル技術に触れる機会の充実

○ハイレベル競技者等による教室の開催

トップレベルの試合を観戦するニーズが、徐々に高まってきています。「観るスポーツ」を推進することにより、感動を得られるばかりでなく、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、活力ある生活が促進されます。

トップレベルの競技会の開催や大会誘致をはじめオリンピックホストタウンの取組みのレガシーとして、ニュージーランド代表ホッケー選手の来市による交流やオークランドホッケー連盟との交流を推進していきます。

○各種大会の開催・支援と競技大会への参加促進

国民体育大会、種目別競技毎の全日本選手権、インターハイなどへの大会出場に関して、全国大会激励事業などを活用して選手が派遣されています。今後も事業をより充実することにより、スポーツ競技力を一層向上させ、選手が夢を持ち、活動意欲が向上するよう努めます。

6 計画の推進及び進行管理

(1) 計画の推進

計画の内容を効果的・効率的に推進するため、次の事項に留意した取り組みを行います。

① 市民の理解と協力

生涯にわたるスポーツライフの実現を図るため、市民一人ひとりが、自らスポーツ推進を図る主体として、スポーツや健康づくりに関心や興味を持つような、事業の推進を図ります。

② 市内スポーツ関係団体との連携

市体育協会や小学校体育連盟、中学校体育連盟、スポーツ少年団等市内スポーツ関係団体の活動を支援するとともに連携を密にし、スポーツ推進体制の充実に努めます。

③ 岡山県及び(財)岡山県スポーツ協会等との連携

岡山県をはじめとするスポーツ関係組織・団体等との連携強化に努めます。また、スポーツ活動全般に関わる情報やスポーツドクター・指導者の派遣、指導支援などを行う岡山県スポーツ協会との連携を図ります。

④ 学校・家庭・地域の連携

児童・生徒の体力向上を図るには、学校だけでなく家庭・地域が、運動部活動、家庭生活、地域活動など幅広い分野で連携した取り組みを行う必要があります。生涯スポーツにつながる児童・生徒の体力向上の重要性を認識し共有するため、子どもたちを見守り育てていく地域・家庭・学校との連携体制の強化に努めます。

⑤ 行政内部の連携

本計画の実現には、コミュニティ振興や健康づくりの取り組みにおいて、保健福祉分野の施策との連携が必要となります。また、「観る」「支える」スポーツの推進と、東京オリンピックホストタウンとしてのニュージーランドとの交流活動やホッケー競技を通じての交流の継続のためには、多くの部署との連携が不可欠です。そこで、行政内部の連携を強化し、横断的な情報交換や事業実施の協力をお互いに行います。

⑥ 計画推進の財政措置

市とスポーツ関係団体等は、計画を実現するために必要な予算等資金の確保とその調整に努め、行財政改革の方向性を遵守しながら、計画的かつ有効に執行できるよう努めます。



雨の中での聖火セレモニー（赤磐市参加ランナー）



カナダ選手とのオンライン交流会

(2) 進行管理

① 情報の受発信

計画を実現するためには、情報発信はもちろんのこと、体育協会や地域で活動している各種スポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ等がそれぞれの役割に応じた情報をインターネット活用等により積極的に発信しなければなりません。また、年々変化する市民ニーズ、社会・経済情勢の変化を的確に捉え、情報分析を行い、計画の見直しに活用できるよう努めます。

② 計画の評価及び見直し

計画の円滑な達成のためには、事業実行に対する適切な評価が必要です。スポーツ関係団体や学校関係団体などの代表、学識経験者などで構成するスポーツ推進計画策定会議等において、毎年実施する児童・生徒の体力・運動能力調査や一般市民対象の新体力テストの結果、事業実施状況、スポーツ施設の整備状況等の資料を提供をし、計画の評価及び見直しについての提言により、必要な場合には計画の見直しを行っていきます。



ニュージーランド選手指導によるホッケー教室でホッケーを楽しむ子供たち 「するスポーツ」



全日本ホッケー選手権大会(赤磐市熊山運動公園)優勝チームを見守る観客 「観るスポーツ」



ニュージーランド事前キャンプで活躍するボランティア 「支えるスポーツ」

参考資料

◆ 体育施設一覧

○山陽地域

施設名	山陽ふれあい公園	桜が丘運動公園
開設年月	平成 5 年 4 月	昭和 58 年 5 月
所在地	正崎 1368	桜が丘西 9-27
敷地面積	178,763 m ²	52,403 m ²
建物延面積	6,706 m ²	
建物構造	鉄筋コンクリート造 2 階建	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ○メインアリーナ <ul style="list-style-type: none"> バドミントンコート 10 面分 固定観客席 544 席 ○フィットネスアリーナ <ul style="list-style-type: none"> バドミントンコート 3 面分 ○トレーニングルーム ○屋内プール <ul style="list-style-type: none"> 一般プール(25m×6 コース) 幼児プール(20m×3.5m) ○フィットネスコート(テニス) <ul style="list-style-type: none"> 4 面(砂入り人工芝)、照明有 ○多目的広場 <ul style="list-style-type: none"> 200mトラック分、照明有 [サッカー、ホッケー他] ○研修室、会議室、本部室、幼児室 ○ちびっこ広場、冒険の森 ○駐車場:424 台 	<ul style="list-style-type: none"> ○野球場 <ul style="list-style-type: none"> 中堅 122m、両翼 91m、内野黒土、外野芝生、バックネット、バックスクリーン(スコアボード)、ダッグアウト、照明有 ○運動場 <ul style="list-style-type: none"> 300mトラック分 [ソフトボール、サッカー他] ○テニス場 <ul style="list-style-type: none"> 5 面(クレイ)、練習用コート半面、会員制 ○駐車場:180 台



施設名	グラウンド・ゴルフ場	西山グラウンド
開設年月	平成 19 年 5 月	昭和 54 年 7 月
所在地	中島 1022-3	西中 215
敷地面積	19,976 m ²	9,016 m ²
建物延面積	137 m ²	
建物構造	木造平屋一部鉄骨造	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ○芝コース 2 面(16 ホール) ○クレイコース 2 面(16 ホール) ○クラブハウス、東屋 ○広場(駐車可 80 台) ○駐車場:70 台 	<ul style="list-style-type: none"> ○多目的グラウンド <ul style="list-style-type: none"> 中堅 100m、両翼 75m [少年軟式野球、グラウンド・ゴルフ他] ○駐車場:50 台



○赤坂地域

施設名	赤坂ファミリー公園	赤坂体育センター
開設年月	昭和 58 年 4 月	昭和 60 年 4 月
所在地	今井 67	町苧田 492
敷地面積	67,583 m ²	2,426 m ²
建物延面積	298 m ²	1,374 m ²
建物構造	鉄骨造 2 階建(管理棟センター)	鉄筋コンクリート造一部 2 階建
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ○多目的広場 中堅 115m、両翼 90m、内野黒土、バックネット、ベンチ、照明有 ○テニスコート 4 面(砂入り人工芝)、照明有 ○ふれあい広場 150mトラック分 [グラウンド・ゴルフ、ゲートボール他] ○駐車場:70 台 	<ul style="list-style-type: none"> ○メインアリーナ バドミントンコート 3 面分 ○サブアリーナ 柔道場 1 面分 ○会議室 ○駐車場:10 台




○熊山地域

施設名	熊山運動公園	熊山武道館
開設年月	平成 8 年 6 月	平成 9 年 7 月
所在地	沢原 57	沢原 356-1
敷地面積	40,800 m ²	3,300 m ²
建物延面積		1,970 m ²
建物構造		鉄筋コンクリート造 2 階建
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ○野球場 中堅 123m、両翼 87m、内野黒土、ベンチ ○テニスコート 5 面(砂入り人工芝)、照明有 ○多目的広場(105m×73m) 人工芝(ウォーターベース) [ホッケー、フットサル他] ○駐車場:119 台 	<ul style="list-style-type: none"> ○柔道場 2 面分 ○剣道場 2 面分 ○駐車場:44 台



○吉井地域

施設名	吉井B&G海洋センター	B&G隣接施設
開設年月	平成 4 年 6 月	平成 8 年 4 月
所在地	草生 1	草生 958-1
敷地面積	10,773 m ²	15,000 m ²
建物延面積	2,760 m ²	
建物構造	鉄筋コンクリート造 2 階建	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ○メインアリーナ バドミントンコート 3 面分 ○サブアリーナ 柔道場 1 面分 トレーニングルーム ○上屋付プール 一般プール(25m×6 コース) 幼児プール ○ミーティングルーム ○駐車場:90 台 	<ul style="list-style-type: none"> ○草生多目的広場(100m×67m) [ソフトボール、サッカー他] ○草生テニスコート 5 面(砂入り人工芝)、照明有 ○吉井グラウンド 中堅 110m、両翼 90m ベンチ、照明有 ○駐車場:100 台
		

施設名	仁堀中スポーツ施設	吉井武道館
開設年月	平成 10 年 4 月	昭和 61 年 8 月
所在地	仁堀中 1515-1	周匝 136-1
敷地面積	9,400 m ²	5,589 m ²
建物延面積		499 m ²
建物構造		鉄筋コンクリート一部鉄骨
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ○仁堀中多目的広場 ソフトボール 1 面分 ○駐車場:50 台 	<ul style="list-style-type: none"> ○柔道場 1 面 ○剣道場 1 面 ○駐車場:150 台
		



「チャレンジデー」空き缶積み挑戦する参加者



空き缶積み指導に携わるスポーツ推進委員の皆さんと参加者

◆ 赤磐市スポーツ推進計画策定会議名簿

(五十音順)

氏 名	所 属
出射 実	岡山県中学校体育連盟赤磐・加賀支部 支部長
大崎 陽二	赤磐市スポーツ推進委員会 委員長
久山 崇文	赤磐市スポーツ少年団 本部長
坪井 秀樹	赤磐市小学校体育連盟 会長
花房 操	赤磐市体育協会 会長



「2019.8 ニュージーランド女子代表ホッケーチームキャンプ（赤磐市熊山運動公園）」
試合でのエスコートキッズ



歓迎会に向かう選手たち（歓迎の市民に囲まれて）



「グラウンド・ゴルフ教室」
体験グラウンド・ゴルフを楽しむ親子



「障がい者の集い」 体操指導をするスポーツ推進委員
と元気に体を動かす参加の皆さん

赤磐市スポーツ推進計画

発行年月	令和4年3月
発行	赤磐市教育委員会
編集	赤磐市教育委員会スポーツ振興課
	〒709-0816 岡山県赤磐市下市337番地
	TEL 086-955-0738 FAX 086-955-1163
	市ホームページ http://www.city.akaiwa.lg.jp/

